

# 経営近況報告会

## ～ 創業10周年を迎えて ～

2009年6月26日

SBIホールディングス株式会社

代表取締役執行役員CEO 北尾 吉孝

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

## 第1部

# SBIホールディングス 創業来10年間の歩み

1. SBIグループの掲げる事業構築の基本観と、  
それに基づいたこれまでの歩み
2. 創業来10年間の企業価値向上の軌跡

# 1. SBIグループの掲げる事業構築の基本観と、 それに基づいたこれまでの歩み

# SBIグループ 事業構築の基本観

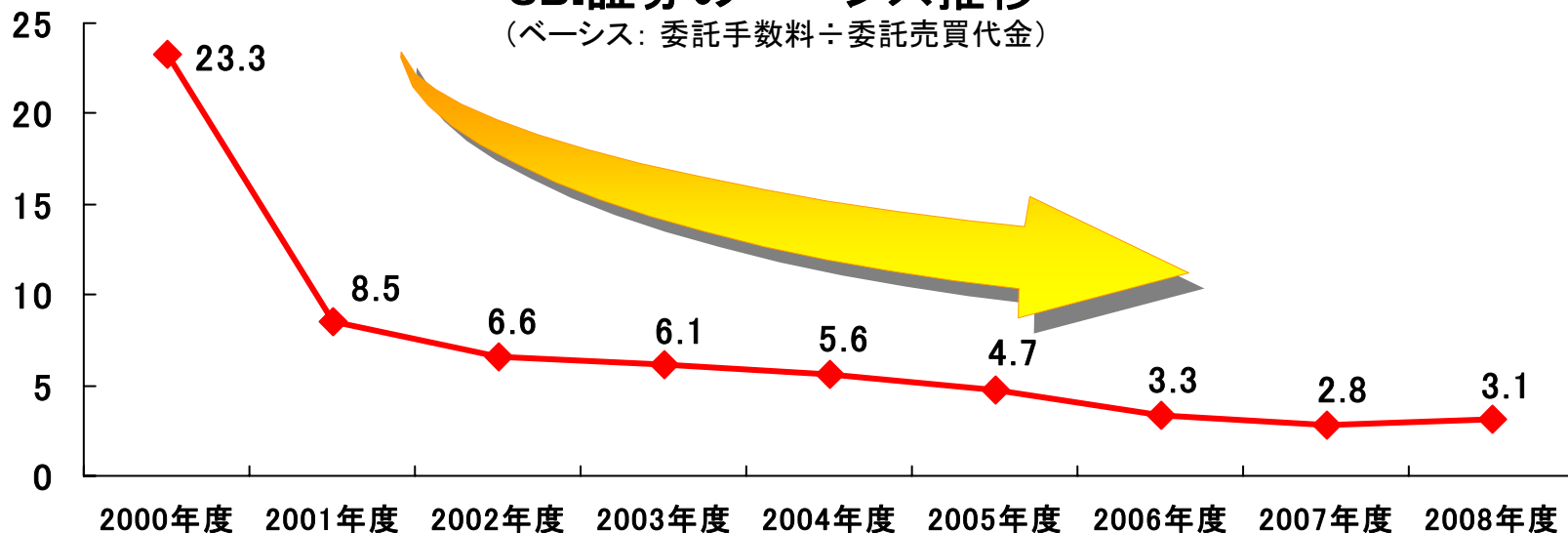
1. 「顧客中心主義」の徹底
2. 「企業生態系」の形成と  
「仕組みの差別化」の構築
3. 「ネットワーク価値」の創出

# 基本観1. 「顧客中心主義」の徹底

SBI証券は、圧倒的低コストの売買手数料により、手数料の価格破壊を実現

### SBI証券のベースス推移

(ベースス: 委託手数料 ÷ 委託売買代金)



### 2008年度(2008年4月～2009年3月)の主要オンライン証券のベースス比較



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成  
委託手数料は決算短信より単体数値を使用  
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

# 中立的な立場で国内最大規模の 金融商品比較サイトを運営



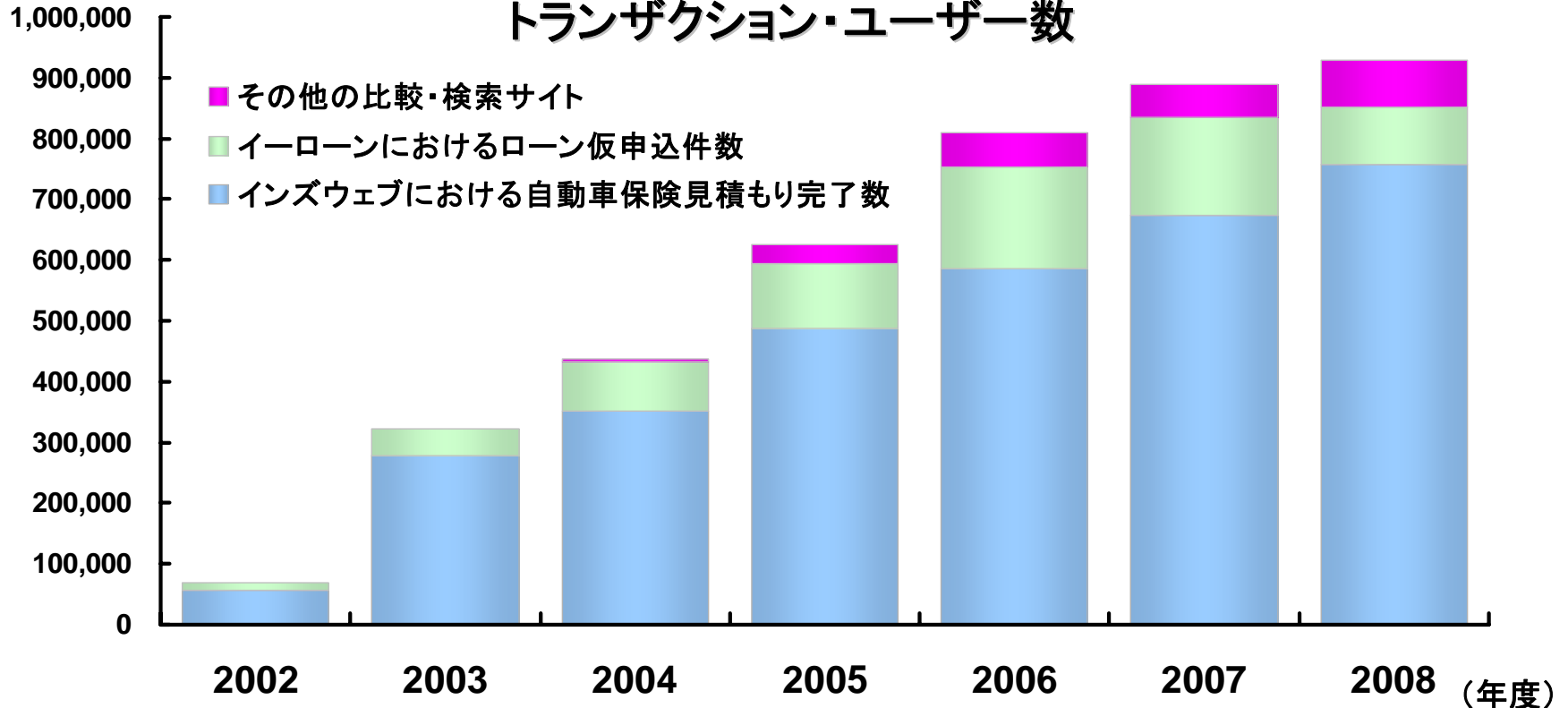
「保険の窓口インズウェブ」  
損保23社・生保20社が参画



「イー・ローン」  
金融機関62社、ローン商品492種

(単位:件)

## ファイナンシャルサービス事業比較検索サイトにおける トランザクション・ユーザー数



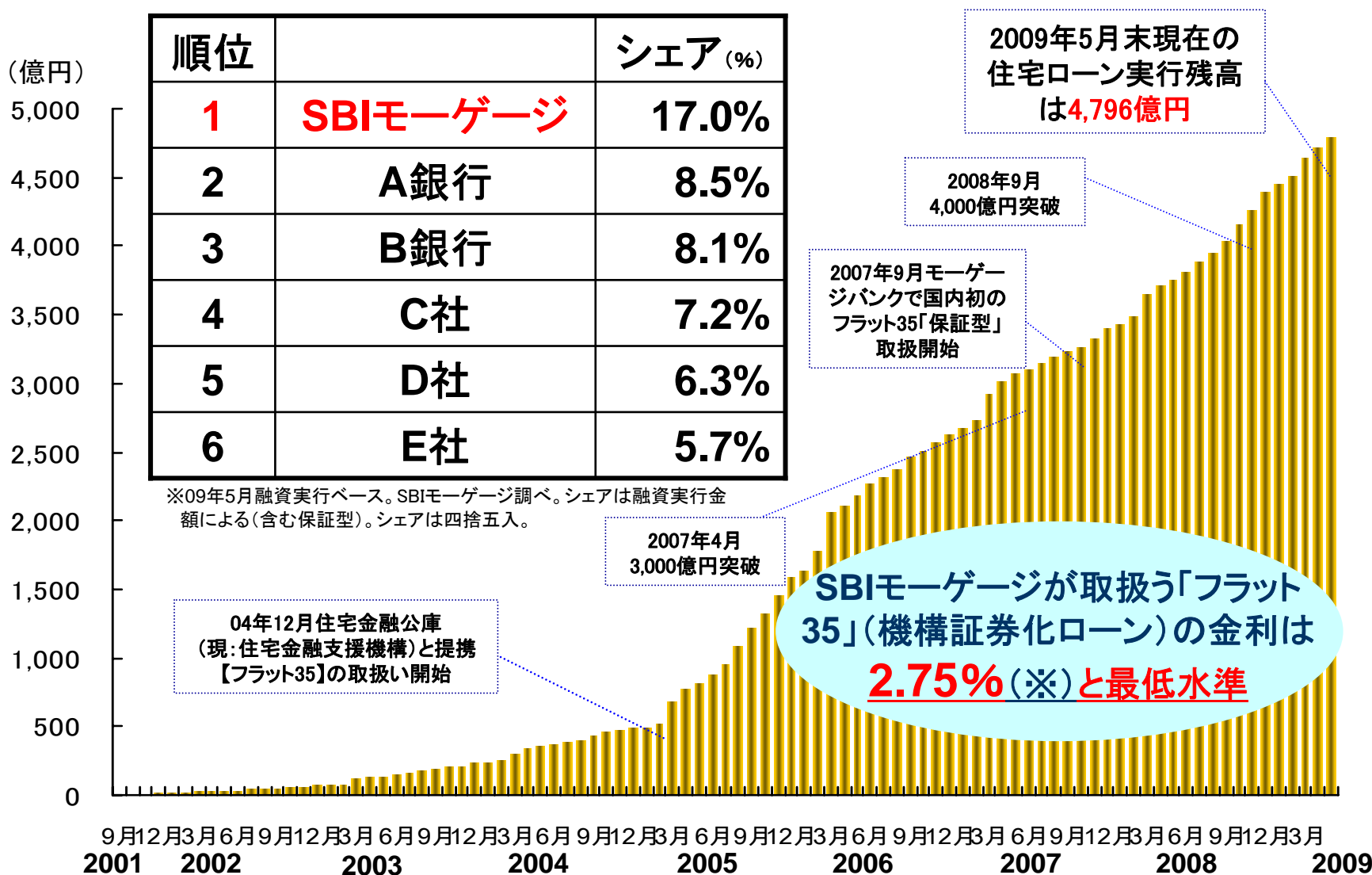


# 業界最低水準の住宅ローン金利を提供

## 09年5月「フラット35」シェア順位

順位		シェア (%)
1	<b>SBIモーゲージ</b>	<b>17.0%</b>
2	A銀行	8.5%
3	B銀行	8.1%
4	C社	7.2%
5	D社	6.3%
6	E社	5.7%

## 住宅ローン実行残高推移



※09年5月融資実行ベース。SBIモーゲージ調べ。シェアは融資実行金額による(含む保証型)。シェアは四捨五入。

**SBIモーゲージ**が取扱う「フラット35」(機構証券化ローン)の金利は **2.75% (※)** と最低水準

(※)09年6月買取型の融資実行金利

## 高金利の預金商品を提供

ネット専業銀行は、店舗コストや人件費などの運営コストを抑えているため、全国に支店を持つような大手都市銀行に比べて高金利の設定が可能

### (例) 定期預金金利の比較

#### 大手都銀3行の平均

	300万円未満			300万円以上		
預入期間	1年	3年	5年	1年	3年	5年
金利(%)	0.2	0.25	0.34	0.2	0.3	0.38

#### 住信SBIネット銀行

↓ 2.62倍

	100万円以上300万円未満			300万円以上		
預入期間	1年	3年	5年	1年	3年	5年
金利(%)	0.514	0.523	0.601	0.524	0.533	0.611

# 最も安い自動車保険料の商品を提供

～週刊ダイヤモンドによる「自動車保険料ランキング」では、**SBI損保が最も安い保険料に。**  
元受正味保険料(※3)が**前年同期比で伸びているのは、すべてダイレクト系** ～

記事

記事

#### ※1、保険料の条件:

・車種:「ホンダフィット 型式:DBA-GE6グレードL(08年12月登録)」、満期日:09年2月1日、契約種類:他社から移行する新規契約、契約対象:個人(男性)、年齢:35歳、住所:東京都、使用目的:日常・レジャー、年間走行距離:5000キロメートル、免許証の色:ブルー、適用の範囲:家族限定、等級:次契約14等級(現在13等級)、対人・対物賠償:無制限  
・人身傷害:5000万円、搭乗者傷害:1000万円

※2、損害サービス拠点数は08年9月末、セゾンは業務委託拠点200箇所、アドリックは08年12月末に200箇所。

※3、元受正味保険料は2008年9月中間期。データがない会社は「-」。 10

# 付加保険料(経費)が最も安い定期保険を提供

～ 週刊ダイヤモンドによる「定期保険の付加保険料ランキング」では、**最も付加保険料(経費)が安かったのはSBIアクサ生命の781円**、最も高かった住友生命、朝日生命(4,741円)と比較すると、**保険料で約2倍、付加保険料では約6倍の4,000円の差に** ～

■[定期保険の付加保険料ランキング](#) (死亡保険金額3000万円、保険期間10年、男性30歳の月額保険料で比較)

記事

記事

定期保険: 死亡保険金額3000万円、保険期間10年、月払い、単品

\* 純保険料はライフネット生命保険が開示した金額(2669円)を使用し、月額保険料から差し引くことで付加保険料を試算した

\* 損保ジャパンDIY生命保険の「1年組み立て保険」は、保険期間が1年のため、10年間の平均で算出した(30歳の場合、30～39歳の保険料平均)

(※2009/3/14 「週刊ダイヤモンド」掲載記事より)

## 基本観2. 「企業生態系」の形成と 「仕組みの差別化」の構築

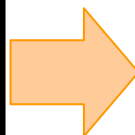
# インターネット時代の競争と仕組みの差別化

インターネット時代の競争を勝ち抜くためには仕組みの差別化が不可欠

Before Internet

競争要因

- ・「価格」の差別化
- ・「サービスの質」の差別化
- ・「商品の多様性」の差別化



After Internet

競争要因

「仕組み」の差別化

- ①組織戦略上の優位性の確保
- ②顧客満足度の更なる高度化
- ③ネットワーク価値の創出

容易に他社の追随を招き、過当競争に陥る

過当競争に巻き込まれることなく、独自の競争優位性を構築できる

インターネット時代においては、企業生態系の構築が最も有効かつ強力な「仕組みの差別化」であり、圧倒的な競争優位性を実現するためには必要不可欠



一企業

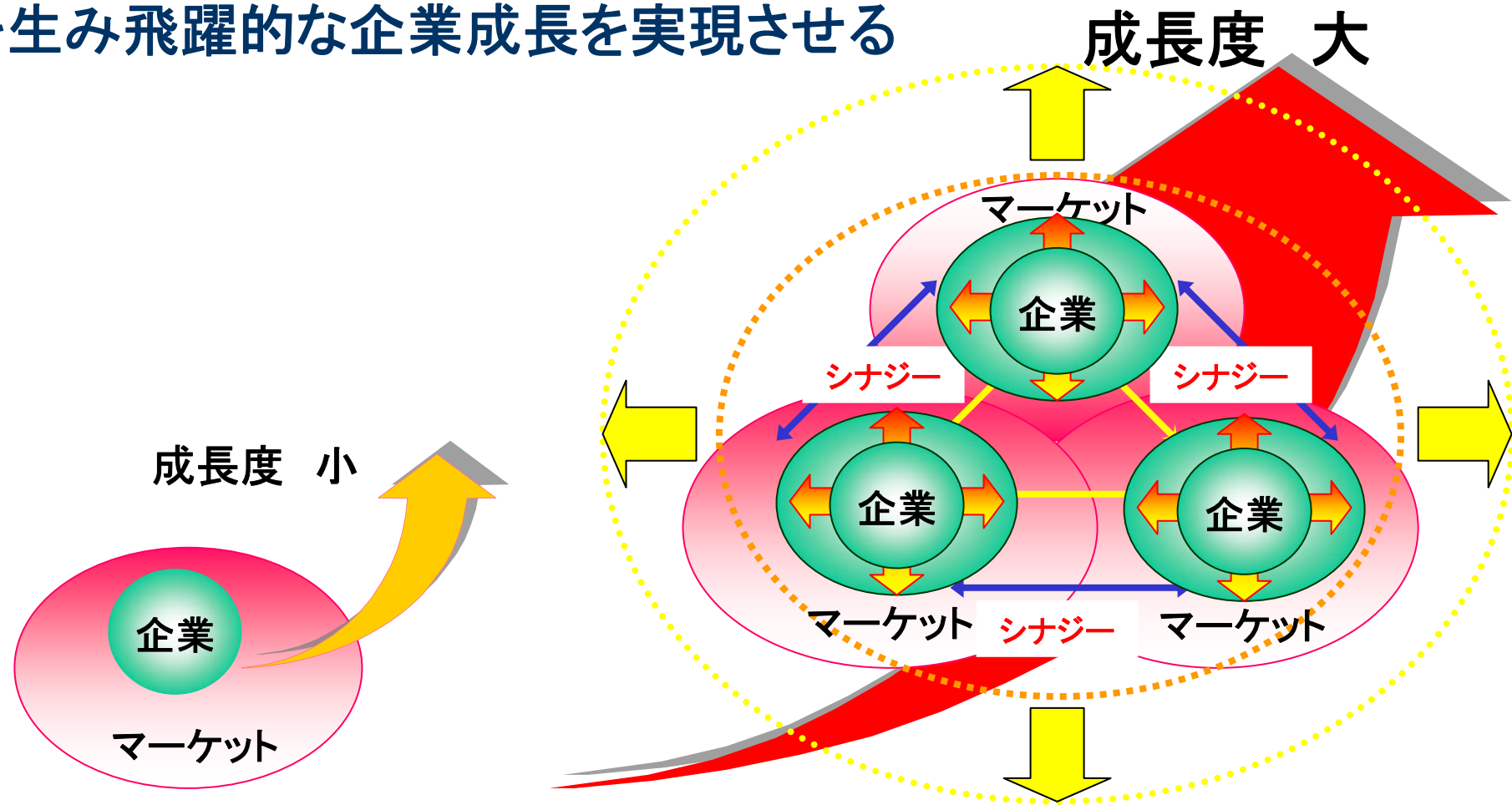
VS

企業生態系



一企業だけでは勝つことはできない!!

企業生態系の形成・発展が構成企業相互の  
ポジティブなシナジー効果を促進するとともに、  
それぞれのマーケットとの相互進化のプロセス  
を生み飛躍的な企業成長を実現させる



単一の経済主体として  
捉えた企業

多彩な構成員と結びつき  
相互進化がなされる「企業生態系」



# SBIグループによる金融生態系の完成

SBIグループ設立以降、金融事業分野で有力パートナーとのジョイントベンチャーを含む多様な事業会社を設立し金融生態系を拡大

➡ ワンストップ・サービスを実現する、世界でも極めてユニークな、ネット金融を中心とした金融コングロマリットとなる



## 金融生態系の完成により発揮される各シナジーの例:

( i ) SBI証券とSBIジャパンネクスト証券  
(2007年8月取引開始)

( ii ) SBI証券と住信SBIネット銀行  
(2007年9月開業)

( iii ) 保険一括見積もり比較サイト「インズウェブ」とSBI損保・SBIアクサ生命  
(2008年1月開業) (2008年4月開業)

( iv ) SBI証券とSBIリクイディティ・マーケット  
(2008年11月開業)

( v ) SBI証券・住信SBIネット銀行・SBI損保・SBIアクサ生命

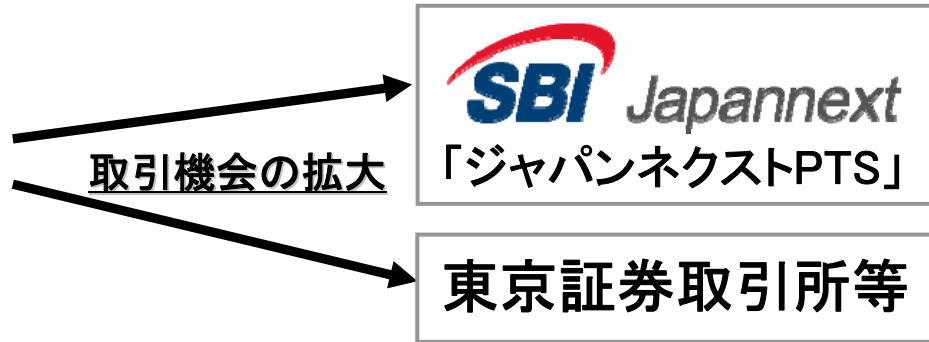
# ( i ) SBI証券とSBIジャパンネクスト証券

## SBI証券

2007年8月より夜間取引を開始／2008年12月より昼間取引を開始



SBI証券の  
顧客



それぞれの市場にアクセスして売買注文を出す



市場ごとに売買価格は異なるため、有利な価格に気付いた顧客がPTS市場を利用

SBI証券:

PTS利用者が増加

(累計PTS口座数: 202,798口座)※

口座数が増加



ジャパンネクストPTS  
の取引拡大

～SBI証券のPTS事業は黒字を堅持～

# SBI証券等の顧客基盤により、ジャパンネクストPTSは 日本最大規模の私設取引市場に

他の私設取引市場において売買代金が低迷する中、  
当PTSの月間売買代金は堅調に推移

## PTS各社の月間売買代金比較('09年)

(単位:百万円)

運営会社	取引開始時期	3月			4月			5月		
		昼間	夜間	合計 (1日平均 売買代金)	昼間	夜間	合計 (1日平均 売買代金)	昼間	夜間	合計 (1日平均 売買代金)
SBI ジャパン ネクスト	07年 8月	45,823	20,806	66,629 (3,172)	81,816	29,025	110,841 (5,278)	65,439	25,302	90,741 (5,041)
kabu.com	06年 9月	15,241	271	15,512	13,675	473	14,149	8,606	396	9,002
マネックス	01年 1月	—	2,101	2,101	—	3,041	3,041	—	2,887	2,887
大和	08年 8月	—	1,341	1,341	—	1,739	1,739	—	1,643	1,643
松井	08年 5月	8	—	8	23	—	23	11	—	11

(※) 売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計

なお上記は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります

シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

**月間売買代金  
1,000億円を突破**

**6月の月間売買代金:  
1,217億円(6/24時点)**

## ( ii ) SBI証券と住信SBIネット銀行

預金・決済  
機能

住信SBIネット銀行  


 Synergy SBI証券

資産運用機能

### 連携サービス例：アグリゲーション機能

住信SBIネット銀行でSBI証券の残高を同時に表示。株式情報へのリンクでSBI証券での証券取引も可能。

### 追加保証金等自動振替サービス

追加保証金が必要な場合に、代表口座の円普通預金からSBI証券口座に自動的に振替えるサービス。

### SBIハイブリッド預金(証券取引の売買代金自動入出金サービス)

SBI証券専用銀行口座(SBIハイブリッド預金)残高を、SBI証券における株式等の現物取引の買付余力の計算、信用取引における信用建余力の計算、現引可能額の計算に利用可能。

### 口座開設同時申込

SBI証券の口座開設と同時に住信SBIネット銀行の口座開設手続きが可能。

(SBI証券の銀行代理業)

**SBI証券の口座開設申込者の約5割※が住信SBIネット銀行の口座を同時申込  
口座開設の増加が、預金残高や住宅ローン累計実行額の増加に寄与**

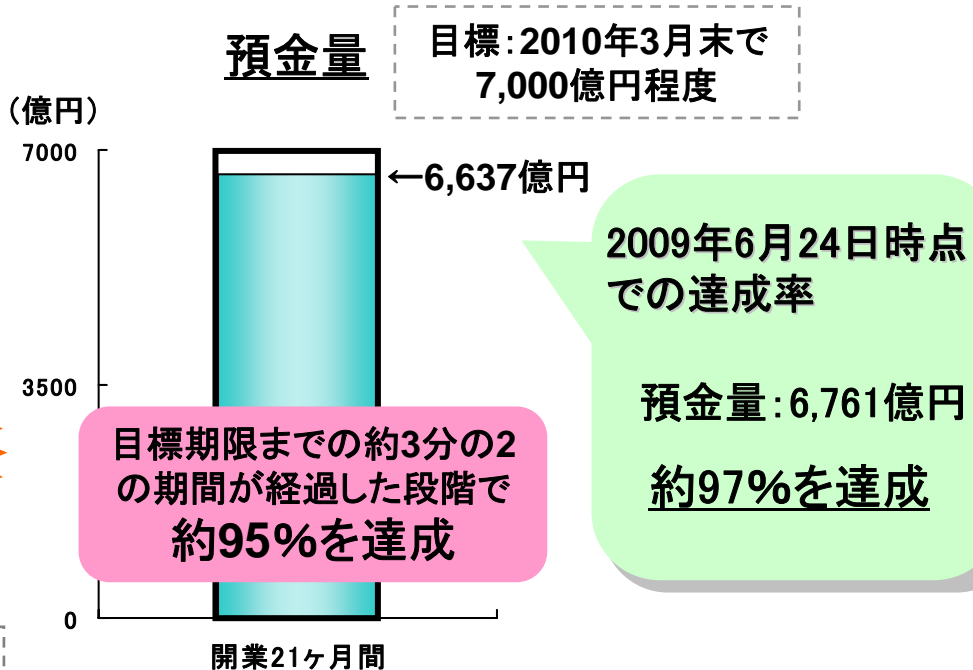
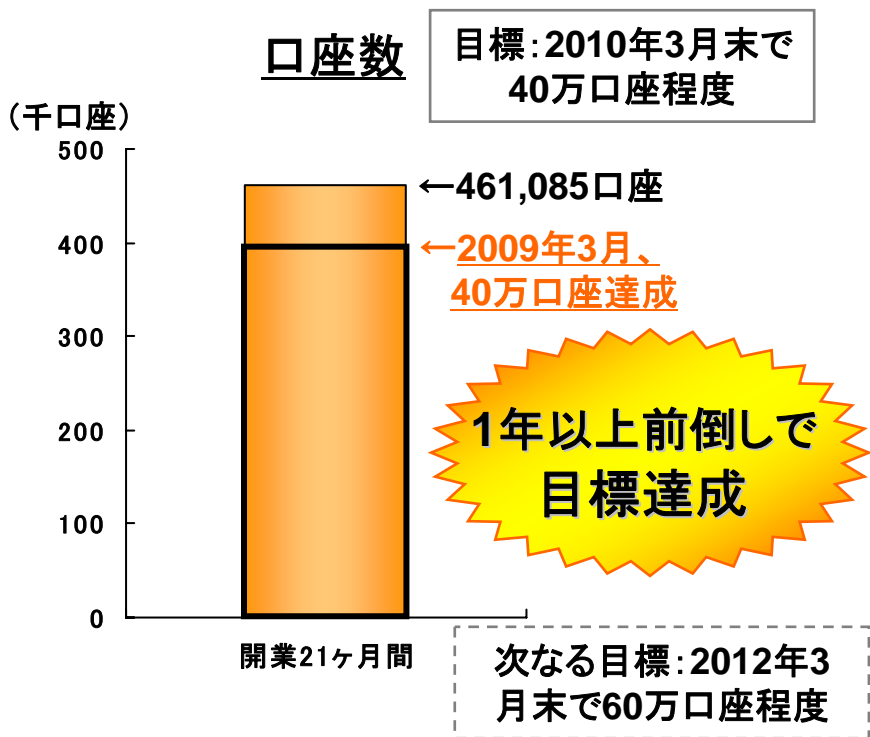
# 順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



2009年5月末時点 ※( )内は2009年6月24日の速報値

口座数: 461,085口座 (480,596口座)  
 預金量: 6,637億円 (6,761億円)  
 貸出金残高: 2,419億円 (2,508億円)  
 (住宅ローン+ネットローン)

## <2009年5月末での達成率>



# 住宅ローン実行累計額も順調に拡大

～住宅ローン取扱い開始から**639日**で、同実行累計額**2,500億円突破**～  
 (2009年6月23日)

住宅ローンの契約件数も  
1万件を突破！

(ジャパンネット銀行、イー・バンク銀行は住宅ローン取扱なし)

	ソニー銀行	住信SBIネット銀行 (注1)
開業日	2001年6月	2007年9月
住宅ローン取扱い開始	2002年3月	同上
2500億円突破に 要した日数	1659～1750日 (注2)	639日

インターネット専門銀行としては最速での到達！

銀行開業日～2,000億円達成：551日 (約27日間で100億円増加のペース)  
 2,000億円達成～2,500億円達成：88日 (約17日間で100億円増加のペース)

(注1)ソニー銀行は約定返済分を反映した実行残高、住信SBIネット銀行は実行金額ベース  
 (注2)四半期毎の公表資料より当社にて集計、2006年12月末時点で254,690百万円。



# 住信SBIネット銀行は2009年3月期第4四半期に 開業2期目にして、四半期ベースでの黒字化達成

## 【経常損失・利益の推移】

2008年3月期		2009年3月期			
4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
経常損失 19.2億円	経常損失 17.8億円	経常損失 12.8億円	経常損失 7.5億円	経常利益 1.37億円	

1.4億円の  
改善

5億円の  
改善

5.3億円  
の改善

2009年1月に初の単月黒字化を達成。四半期ベースでも初の黒字化(当期利益:1.34億円)を達成!

4月・5月ともに単月黒字となり、2010年3月期  
第1四半期も四半期ベースでの黒字が見込まれる





# インターネット専業銀行の黒字達成時期

住信SBIネット銀行が達成した開業17ヶ月目(2009年1月)での単月黒字は、イーバンク銀行・ジャパンネット銀行に比べ、圧倒的なスピードでの達成!

2009年3月期4Qには四半期ベースでの黒字化を達成し、先行する3行に比べて四半期ベースでの黒字化も最速で達成!

	開業日	単月黒字達成	達成までの月数	四半期ベース黒字達成	達成時期	通期黒字達成(時期)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/12	30ヶ月目	2004年3月期4Q	3期目4Q	2006年3月期(5期目)
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2004/3	42ヶ月目	2005年3月期1Q	5期目1Q	2005年3月期(5期目)
ソニー銀行	2001/6/11	未公表		2005年3月期4Q	4期目4Q	2006年3月期(5期目)
住信SBIネット銀行	2007/9/24	2009/1	<u>17ヶ月目</u>	2009年3月期4Q	2期目4Q	目標: 2010年3月期(3期目)

(※)各行公表資料より当社にて作成

# (iii) 保険一括見積もり比較サイト「インズウェブ」と SBI損保・SBIアクサ生命

国内最大級の「保険のマーケットプレイス」



中立的な立場で多彩な保険商品の一括資料請求・一括見積もりサービスを提供

## 自動車保険

参加損害保険会社等: 23社

自動車保険見積もり数:  
**年間75万件超** (08年度)

## 生命保険

参加生命保険会社等: 20社

火災保険

バイク保険

ドライバー保険

個人年金

学資保険

海外旅行保険

ゴルフ保険

レジャー保険

ペット保険

## SBI損保

～契約件数の**約5割**がインズウェブ利用者～



～インズウェブ経由での**契約件数が徐々に増加**～

その他損害保険会社

その他生命保険会社

その他金融機関等

# (iv) SBI証券とSBIリクイディティ・マーケット

SBIリクイディティ・マーケットを活用しサービス内容を  
 拡充したことで、SBI証券におけるFX取引の売買代金は大きく拡大

## ネット証券大手4社※1の外国為替保証金取引売買代金の推移

2009年5月の  
 売買代金:

SBI  
 6兆5,624億円※2

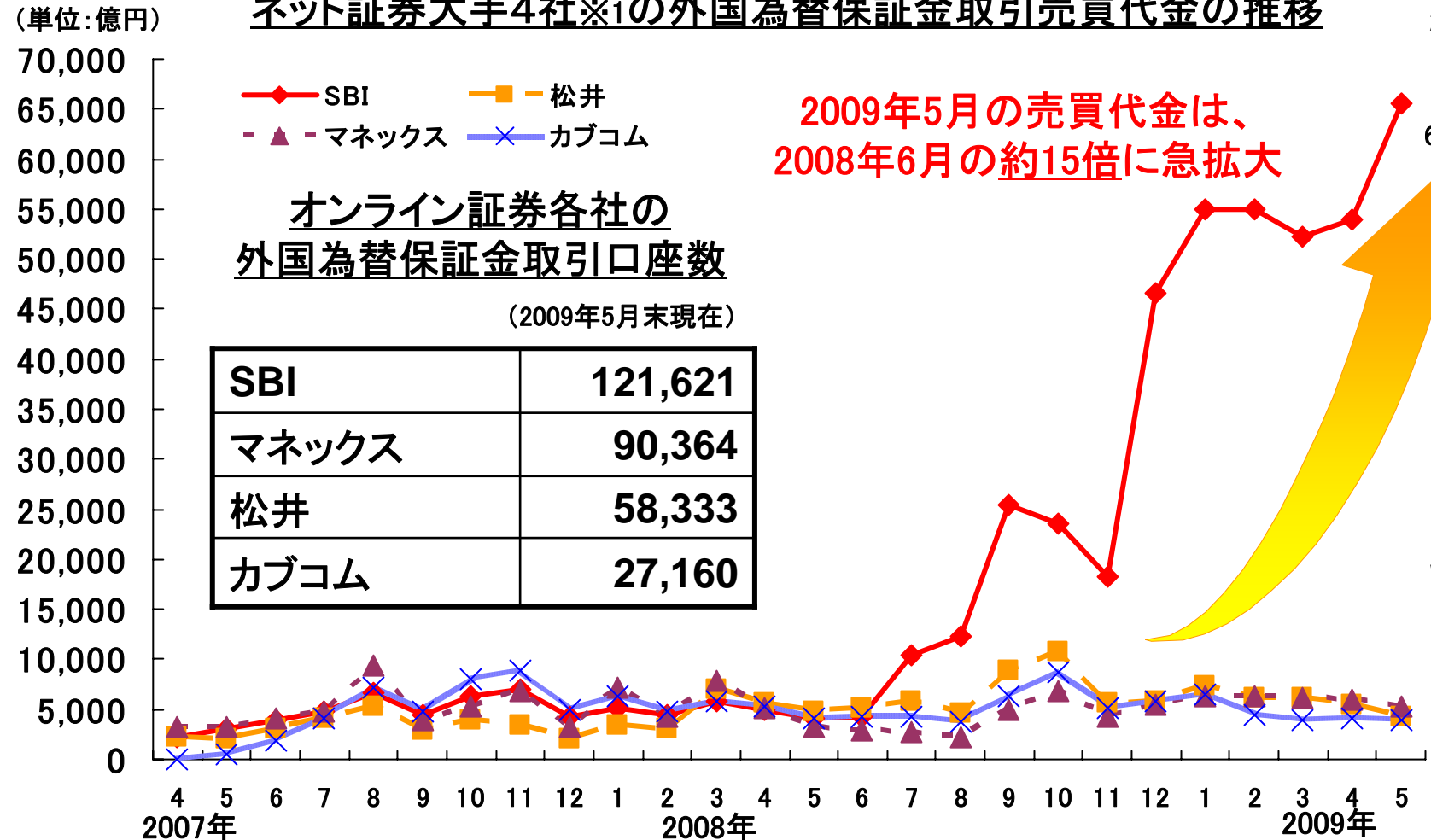
2009年5月の売買代金は、  
 2008年6月の約15倍に急拡大

## オンライン証券各社の 外国為替保証金取引口座数

(2009年5月末現在)

SBI	121,621
マネックス	90,364
松井	58,333
カブコム	27,160

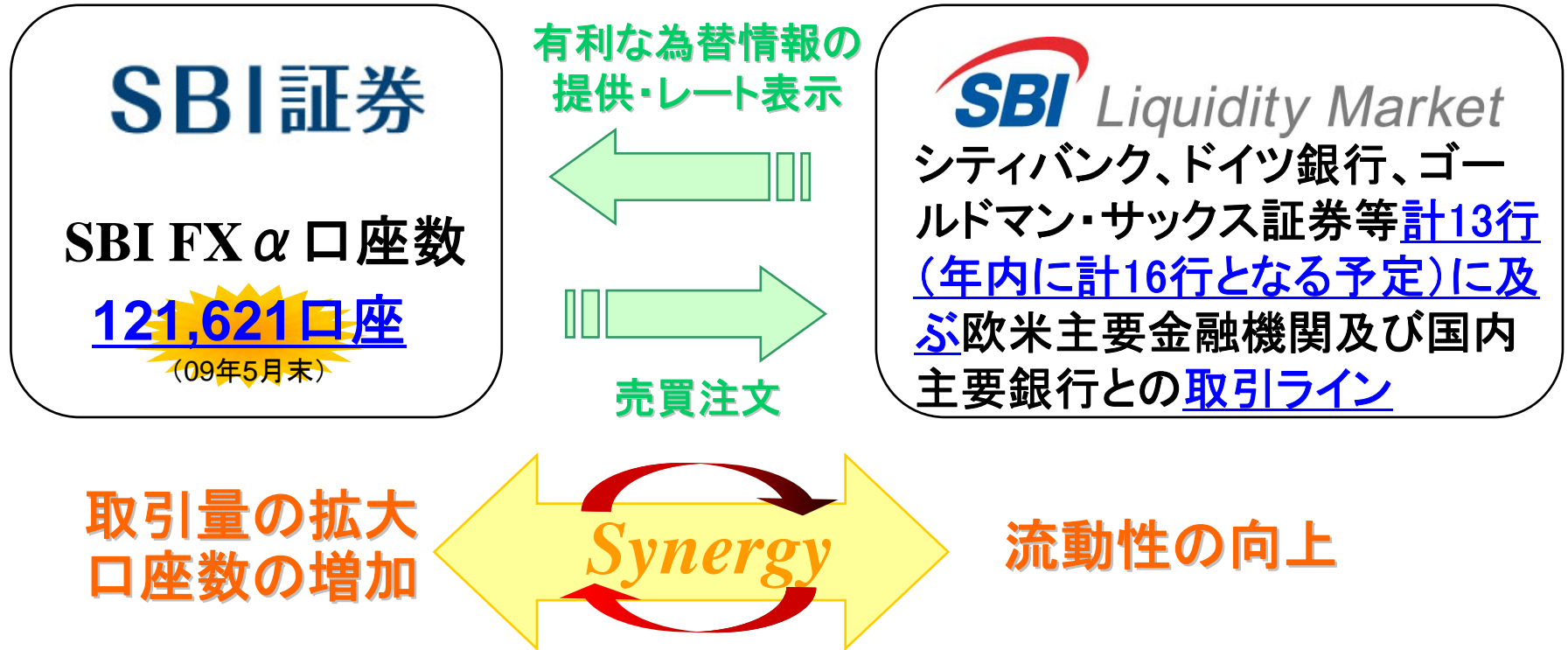
マネックス  
 5,344億円  
 松井  
 4,346億円  
 カブコム  
 3,879億円



※1 データが開示されたSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブコム証券の4社

※2 2008年11月～2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

# SBI証券での取引拡大がもたらす、 SBIリクイディティ・マーケット成長のための好循環



SBI証券の取引量の拡大により、SBIリクイディティ・マーケットの流動性が高まる。流動性が高まれば、顧客はより利便性の高いFX取引の環境を得られ、個人投資家のFX取引の市場規模がますます大きくなる。

# SBIリクイディティ・マーケットは、2008年11月17日の 営業開始から短期間で、連結業績に大きく貢献する子会社に成長

## 【SBIリクイディティ・マーケットの収益貢献】

(単位:億円)

	2009年3月期		
	3Q ※1	4Q	通期
営業収益(売上高)	5.5	23.5	<u>29.0</u>
内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券:営業利益)	3.5	14.9	<u>18.3</u>
営業利益	1.1	7.3	<u>8.4</u>

2010年3月期		
4月	5月	6月
8.5	9.3	8.9
5.4	5.8	5.6

(6/24時点概算値)

※1 営業期間は11月17日からの約1.5ヶ月間

## 【参考】上場するFX専業事業者の業績(2009年3月期通期)

(百万円)

	営業収益	営業利益	時価総額(6月25日)
マネーパートナーズグループ ※2	10,772	4,332	16,167
FXプライム	5,835	2,470	5,104
マネースクウェア・ジャパン	1,410	48	1,361

※2 マネーパートナーズグループのみ連結業績、その他は単体業績。

# (V) SBI証券・住信SBIネット銀行・SBI損保・ SBIアクサ生命での連携

グループ各社相互が商品取扱代理店等となることで、  
グループシナジーを追求・強化

**SBI証券** (顧客基盤はネット証券最大の約189万口座) ※1

- ★2007年9月：住信SBIネット銀行の銀行代理店業務を開始
- ★2008年1月：SBI損保の自動車保険の取扱を開始
- ★2008年6月：SBIアクサ生命の保険商品の取扱を開始

累計口座開設数  
194,104口座

※2

**住信SBIネット銀行**  (顧客基盤は約46万口座) ※1


- ★2008年7月：SBI証券を委託金融商品取引業者として金融商品仲介業務を開始
- ★2008年11月：SBIアクサ生命の保険商品の取扱を開始
- ★2009年4月：SBI損保の自動車保険の取扱を開始

累計口座開設数  
13,447口座

※3

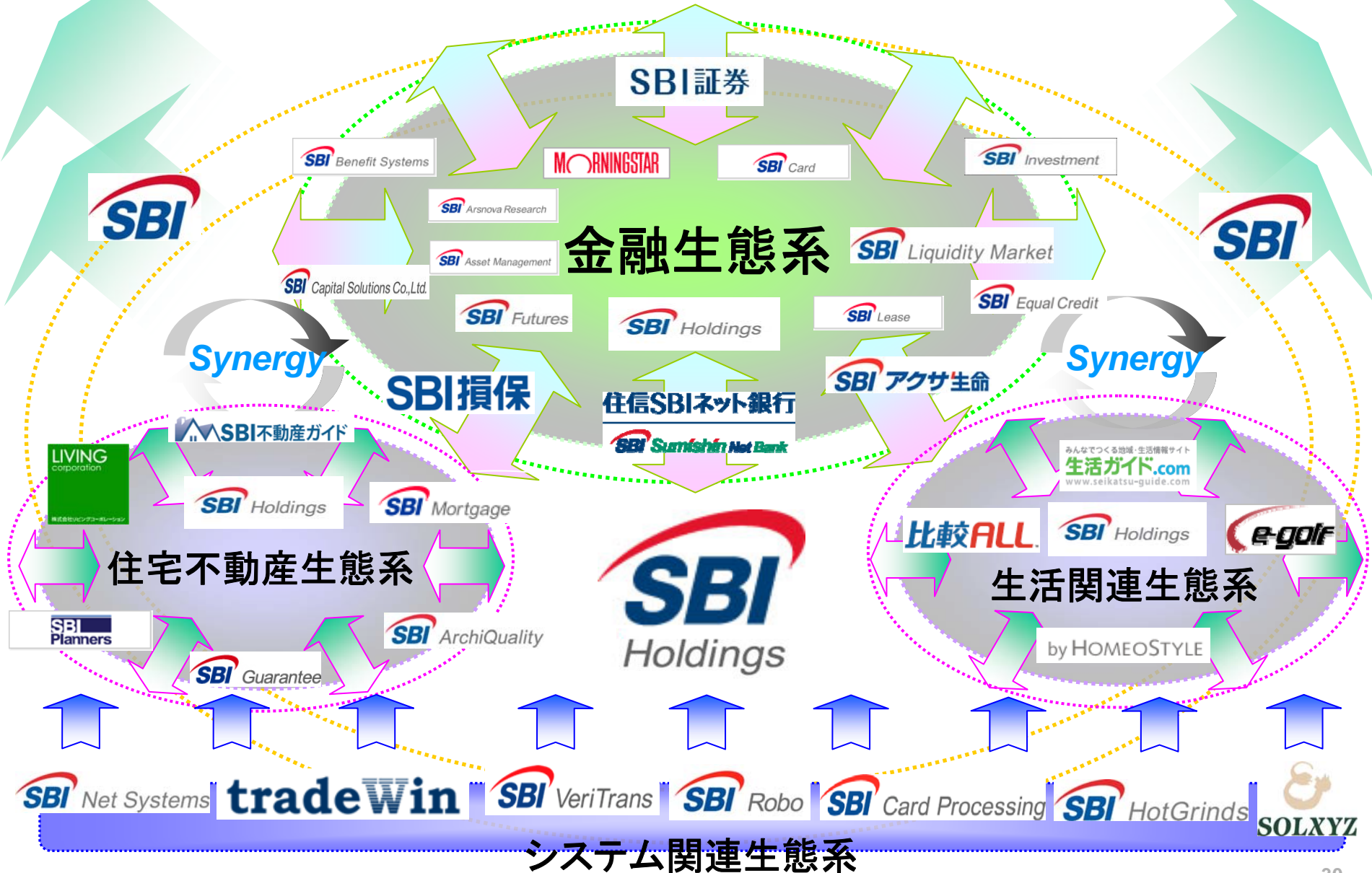
**SBI損保**

- ★2009年6月：SBIアクサ生命の保険商品取扱を開始

 **準備中** (関係当局の認可取得が前提)



# 次の発展段階として、住宅不動産、システム関連、生活関連の非金融分野における生態系を拡大

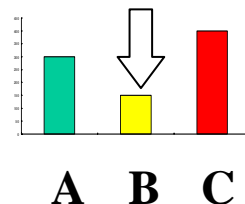


## 基本観3. 「ネットワーク価値」の創出



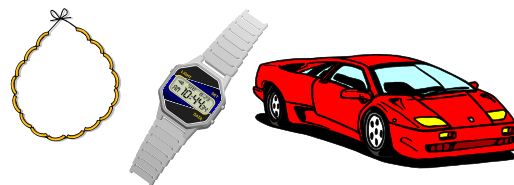
# 「価値」訴求から「ネットワーク価値」の訴求へ

「価格」訴求



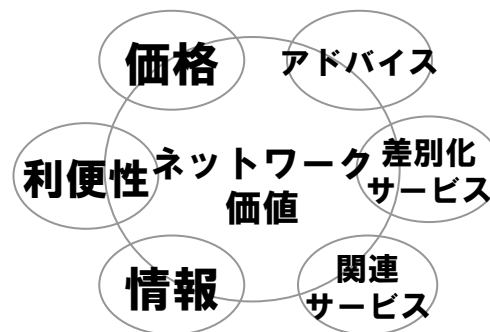
安い商品・安いサービス

「価値」訴求



商品やサービス単体の本源的な価値

**「ネットワーク価値」  
の訴求**



情報・財サービスを複合的に顧客に提供することにより、顧客付加価値を創造する 32

# ネットワーク価値の創出

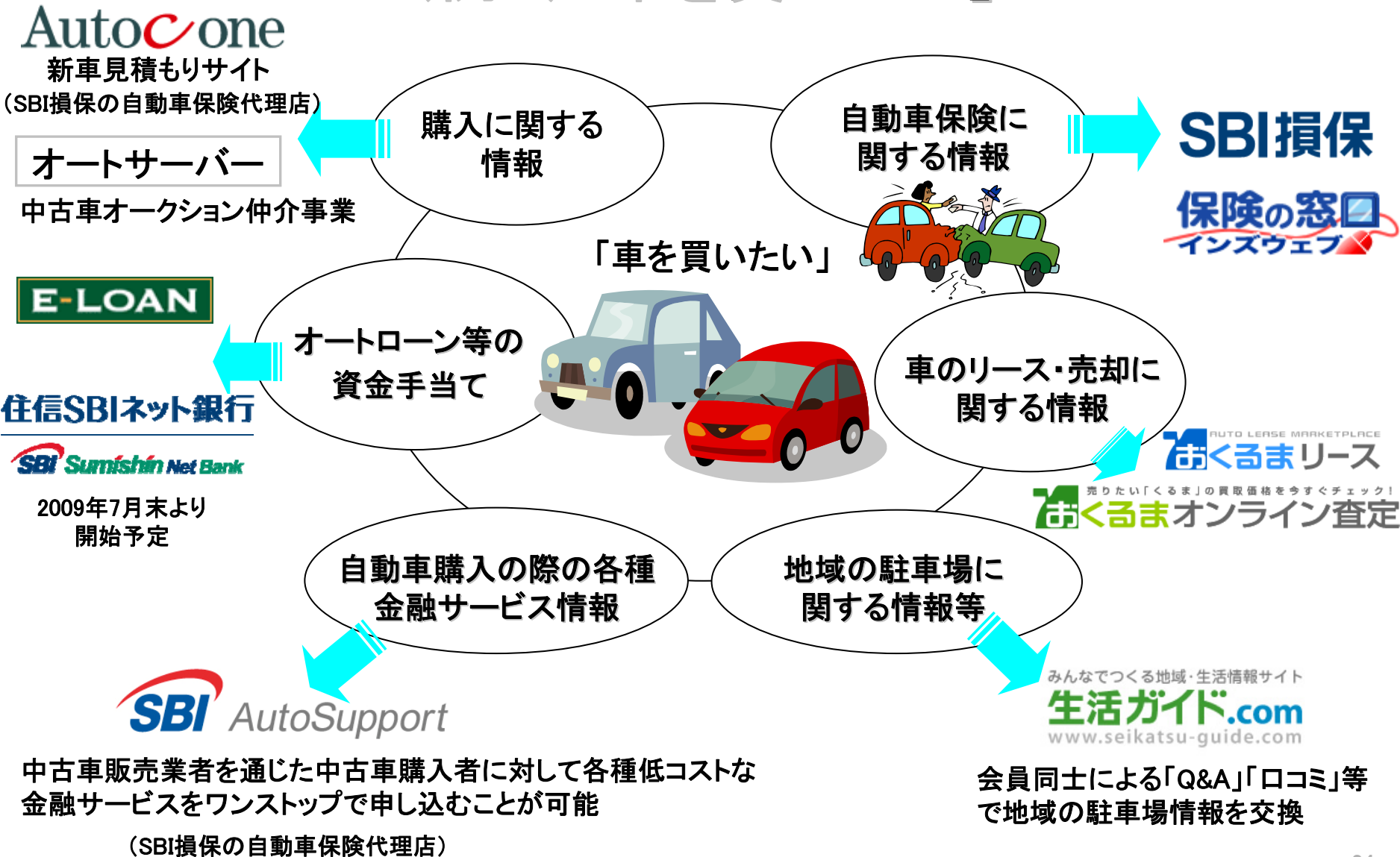
## (例1)「家を買いたい」



家を買いたいという意思・要求を持った人に対し、そこから派生するあらゆる情報を提供するネットワークを構築することにより、顧客の購買行動を効率的にサポートする。

# ネットワーク価値の創出

## (例2)「車を買いたい」



# グループ資源を活用したネットワーク価値の追求

結婚・子育て・住宅購入等のライフイベントにおいて、  
様々なニーズに応えるためのネットワークを構築中

ライフイベント・ライフシーン

- 結婚
- 出産・育児
- 学校・教育
- 住まい
- セカンドライフ
- 旅行・レジャー
- マネー
- 健康・医療
- 趣味・スポーツ



SBIインベストメントの投資先との連携も図り、ネットワーク価値を一層追求していく。

SBIインベストメントの関連投資先(一例):

- エスクリ(ブライダルパーティ会場の運営) / Jubilee Lab(バーチャルトレーディングサイト運営)
- ルネサンス・アカデミー(通信制高校) / 小僧com(シニア向けSNS運営)
- ラストリゾート(留学支援) / ランドーナジャパン(ホテル運営)
- ...等々

# ネットワーク価値を訴求する新たな事業モデルを構築

SBIホールディングスの生活関連事業の一部を  
リビングコーポレーションへ移管

## SBIライフリビング株式会社

(7月1日付で「株式会社リビングコーポレーション」より商号変更の予定)

### 従来からの不動産開発事業

- ・賃貸住宅、ホテル開発  
販売事業
- ・物件開発の企画設計事業



- ・建築請負・投資アパート開発事業

### インターネットを活用した 生活関連事業













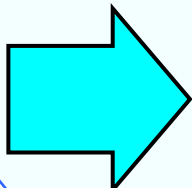








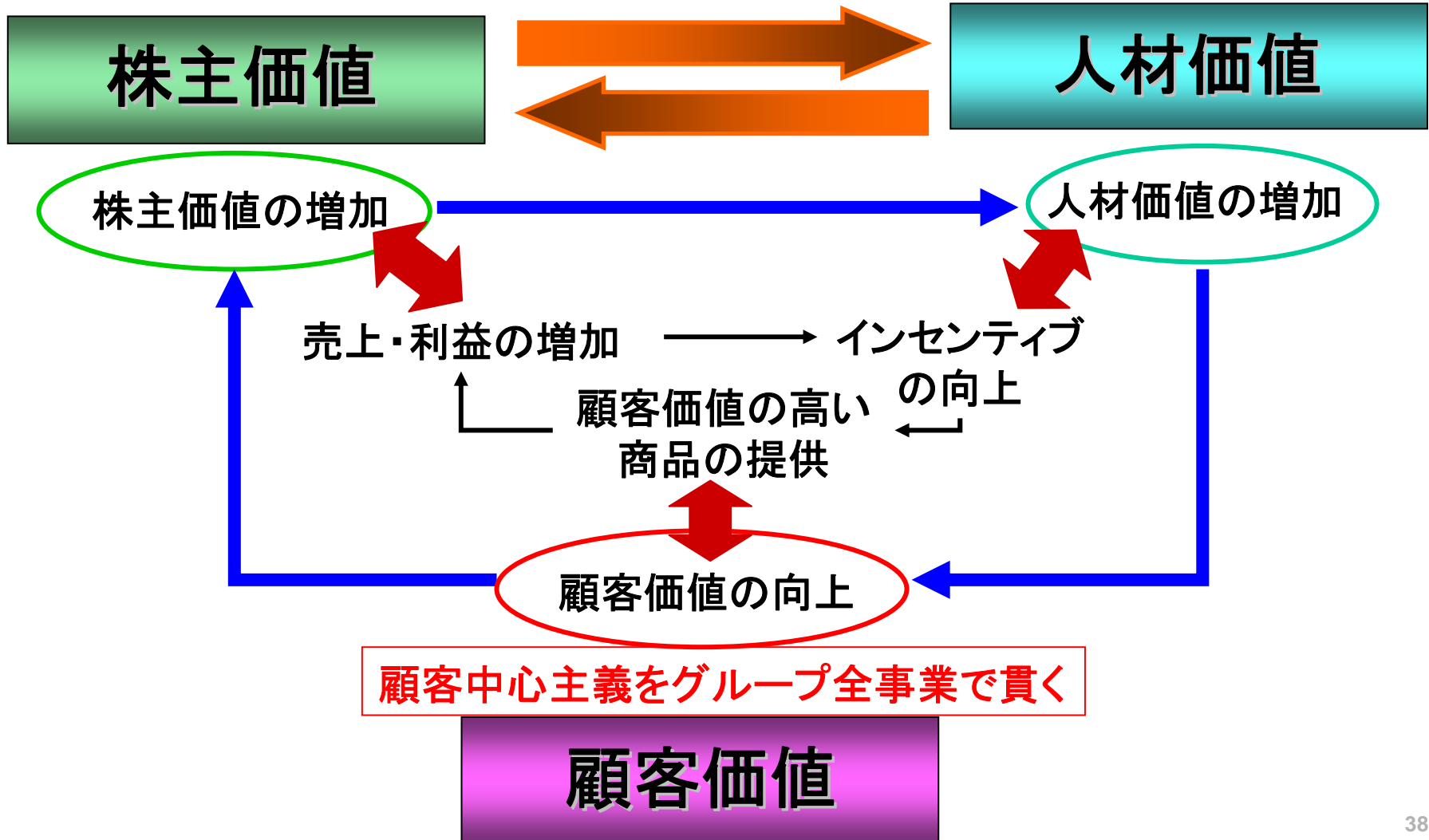


 SBIグループが有するインターネット・ビジネスノウハウとの融合により、従来の不動産事業会社にはない、ユニークなビジネスモデルの確立と、収益の多様化による事業規模拡大へ

## 2. 創業来10年間の企業価値向上の軌跡

# 「企業価値」向上のメカニズム

「企業価値」は、顧客価値の創出が土台となり、株主価値・人材価値と相互に関連しながら生み出され、増大されていく





# 飛躍的に拡大したSBIグループの顧客基盤



**SBIグループの顧客データベースは、約800万件<sup>\*</sup>にまで拡大**

主なグループ企業・事業部		2005年3月末	2008年3月末	2009年3月末
SBI証券	(口座数)	59万	166万	187万
インズウェブ	(延べ取引者数)	69万	240万	319万
イー・ローン	(延べ取引者数)	14万	57万	67万
SBIモーゲージ	(実行残高)	681億円	3,651億円	4,639億円
住信SBIネット銀行	(口座数)	0	12万	41万
SBIベリトランス	(利用店舗数)	1,010	2,500	2,717
SBIカード	(カード発行枚数)	(06年11月開始)	3万2千	4万7千
モーニング・スター	(新ポートフォリオ登録者数)	(06年秋より)	3万1千	4万
生活関連比較サイト	(年間利用者数)	5万	29万	51万
MoneyLook(マネールック)	(登録者数)	30万	62万	65万
オートックワン	(年間利用者数)		212万	180万

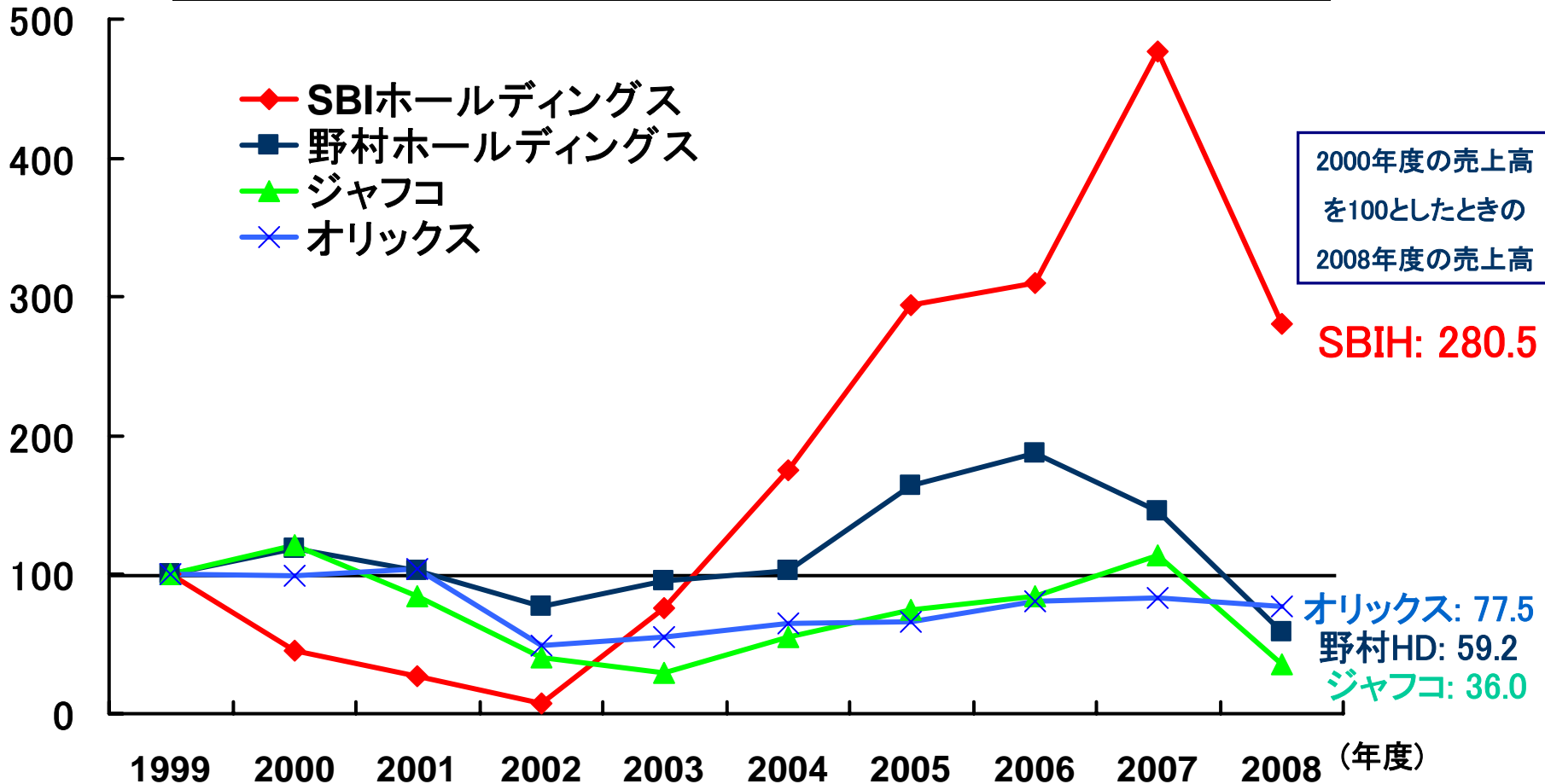
※各サービスサイトの性質上、複数の取引を行ってもユニークユーザーを認識しうる場合には重複を省く一方、グループ企業間における重複顧客はダブルカウントされています。 39



# 売上高にみるSBIグループ創業からの10年

SBIホールディングスの連結売上高は創業から10年で約3倍の規模に成長

1999年度売上高を100としたときの各社の連結売上高の推移



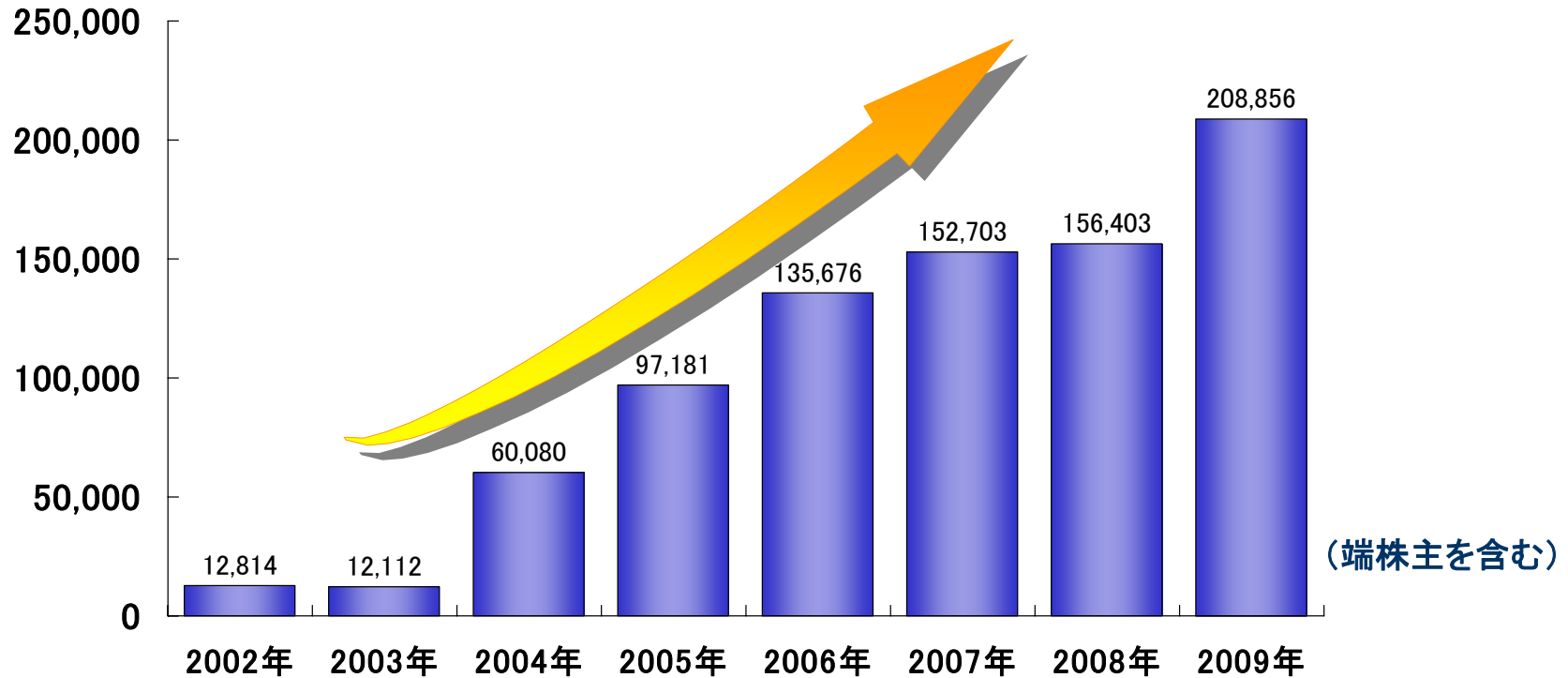
※1 SBIホールディングスは2001年度まで9月決算。それ以降は3月決算(2002年度は6ヶ月間)

※2 野村ホールディングスは2001年度まで日本基準、それ以降は米国会計基準

# 株主価値増大の期待感の高まりと共に 大きく増加した株主数と外国人持ち株比率

(人)

## 株主数の推移



## 外国人持株比率の推移

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
外国人持株比率 (%)	2.0	1.2	10.5	9.9	19.5	29.9	24.2	44.2

# 急上昇する当社の外国人株式保有比率

～2008年度通期の上昇率ランキングは1位に～

外国人による株式保有比率の上昇ランキング(08年3月末から09年3月末の上昇幅)

順位	社名	1年間での上昇幅 (ポイント)	09年3月末の 外国人比率(%)
1	SBIホールディングス	20.1	44.2
2	日本トイザラス	19.8	(*1月) 68.2
3	富士火災海上保険	14.9	51.2
4	旭テック	14.2	73.9
5	アセット・マネジャーズ	12.6	(*2月) 54.1
6	エルピーダメモリ	9.5	35.8
7	ウェザーニューズ	8.8	(*08年11月) 9.8
8	ザッパラス	8.5	(*08年10月) 26.1
9	エス・エム・エス	8.3	9.3
10	ホクト	7.7	19.7

当社外国人  
保有比率  
推移

08年3月末  
24.2%



08年9月末  
42.5%



09年3月末  
44.2%

※2009年6月21日 日経ヴェリタス記事より抜粋

(前年比、株式時価総額が100億円以上の会社が対象。社名は一部略称。)

# 多数の株主の期待を受けるSBIホールディングス



株主数は208,856名に増加、東証一部上場企業全1,716社中27位という、  
日本でも非常に多くの株主に保有される企業のひとつに

## 東証一部上場企業株主数ランキング

順位	銘柄名	株主数
1	日本電信電話	1,047,883
2	ソニー	610,790
3	東京電力	598,245
4	トヨタ自動車	519,858
5	三菱UFJFG	466,246
6	三菱自動車	423,006
7	日本航空	379,649
8	ソフトバンク	374,397
9	新日本製鐵	368,273
10	みずほFG	354,041
11	関西電力	346,615
12	三菱重工業	331,884
13	東芝	331,200
14	NTTドコモ	319,462
15	りそなHD	297,435

順位	銘柄名	株主数
16	T&D HD	289,236
17	中部電力	276,877
18	JR東日本	269,546
19	日立製作所	265,029
20	全日本空輸	261,518
21	日産自動車	255,480
22	野村	248,408
23	コマツ	228,327
24	三洋電機	224,635
25	NEC	217,921
26	住友金属工業	214,141
27	SBIホールディングス	208,856
28	ヤフー	196,066
29	JFE	196,044
30	イオン	188,433

順位	銘柄名	株主数
31	三井住友FG	185,815
32	本田技研工業	185,254
33	近畿日本鉄道	184,268
34	東レ	184,005
35	東北電力	181,658
36	双日	180,848
37	キヤノン	176,183
38	三菱商事	173,403
39	神戸製鋼所	172,608
40	富士通	166,632
41	川崎重工業	151,761
42	JR西日本	150,014
43	武田薬品工業	146,517
44	吉野家HD	145,441
45	パナソニック	144,155

# 外国人投資家の期待も高まっている SBIホールディングス

外国人持株比率は時価総額1,000億円以上の全466上場銘柄中36位に

## 全市場外国人持株比率ランキング(時価総額1,000億円以上)

順位	銘柄名	外国人持株比率(%)	順位	銘柄名	外国人持株比率(%)	順位	銘柄名	外国人持株比率(%)
1	JCOM	84.9	16	三井不動産	50.6	31	コニカミノルタ	45.8
2	日本オラクル	80.3	17	ローム	50.5	32	大証	45.6
3	中外製薬	74.9	18	SMC	49.7	33	アステラス製薬	45.1
4	あおぞら銀行	68.9	19	クレディセゾン	49.0	34	ヒロセ電機	44.9
5	日産自動車	67.1	20	NOK	49.0	35	USS	44.8
6	昭和シェル	63.5	21	ソニー	48.0	36	SBIホールディングス	44.2
7	トレンドマイクロ	62.7	22	花王	47.6	37	キヤノン	44.1
8	オリックス	57.6	23	THK	47.4	38	セコム	44.1
9	イーアクセス	57.6	24	みらかHD	47.2	39	レオパレス	43.7
10	ヤマダ電機	56.7	25	ファナック	47.1	40	キーエンス	43.2
11	新生銀行	55.0	26	日東電工	46.9	41	大東建託	43.2
12	マツダ	54.6	27	富士フイルム	46.5	42	日本興亜損保	43.0
13	ミスミG	53.9	28	東京エレクトロン	46.0	43	ヤフー	42.5
14	マクドナルド	53.5	29	任天堂	45.9	44	京セラ	42.5
15	HOYA	51.6	30	三井住友海上	45.9	45	TDK	42.4

# グループの成長と共に多くの優秀な人材を獲得

連結従業員数は、創業時の55人から  
10年間で**45.3倍**の2,492人に拡大

2006年度からは新卒採用も開始し、  
計196人の新入社員が入社

10年間で45.3倍に



1999年(創業時)  
55人



2009年3月期末  
2,492人

# 現在のSBIホールディングスの姿

	創設当時 1999年	2005年3月末	2009年3月末
グループ顧客基盤	0	約170万件	<b>約800万件</b>
従業員数(連結)	55人	1,374人	<b>2,492人</b> ピーク時: 2,666人 (2008年3月期)
売上高(連結)	0	815億円	<b>1,309億円</b> ピーク時: 2,226億円 (2008年3月期)
連結子会社数	0	36社	<b>82社</b> (組合含む)
グループ 上場企業数	0	6社 (ソフトバンク・インベ ストメント(現SBIH)含む)	<b>9社</b> (SBIホールディングスを含む) ピーク時: 11社(2008年3月期)
資本金	5,000万円	347億円	<b>552億円</b>
純資産	5,000万円	1,294億円	<b>4,193億円</b>

# SBIグループの成長の過程で開業した、 多くの免許・許認可事業ならびに登録事業

他にも多数の行政機関による認可等を取得しており、グループ全体の社会的信用度が向上

## 免許・許可・指定・認可事業

免許取得日	法人名	事業内容	行政機関
2007/9/18	住信SBIネット銀行	銀行業	金融庁(免許)
2007/12/26	SBI損保	損害保険業	金融庁(免許)
2008/4/2	SBI アクサ生命	生命保険業	金融庁(免許)
2005/6/27	SBI Servicer	特定金銭債権管理回収業務	法務省(許可)
2008/2/29	SBI ArchiQuality	建築確認検査業務	国土交通省(指定)
2007/11/27	SBI 大学院大学	大学院運営	文部科学省(認可)
2007/6/27	SBI Japannext	PTS事業	金融庁(認可)
2001/1	SBI Futures	商品取引受託業務	農林水産省(許可) 経済産業省(許可)

## 登録事業

1998/12	SBI証券	証券業	金融庁
2007/3/9	SBI Japannext	証券業	金融庁
2006/2	SBI Futures	金融先物取引業	金融庁
2000/11/28	SBI Asset Management	投資運用業、投資助言・代理業	金融庁



# 多様な事業分野でパイオニアでありNo.1である SBIグループ(1)



## SBIインベストメント SBI Investment

- ・2000年以降に償還した国内VCファンドの中でNo.1のパフォーマンス
- ・IT・バイオ系ファンドでNo.1の規模

## SBIキャピタル SBI Capital

- ・SBI・LBO・ファンド1号で投資した(株)かわでんは、民事再生手続きを申請した元上場企業として日本初の再上場に成功

## SBI証券 **SBI証券**

- ・国内株式委託売買代金No.1のシェアを獲得
- ・個人株式委託売買代金No.1のシェアを獲得
- ・個人信用取引売買代金No.1のシェアを獲得

## SBIジャパンネクスト証券 SBI Japannext

- ・夜間取引での取引可能な銘柄数でNo.1
- ・注文から確認通知配信までに要する時間におけるシステムパフォーマンスでNo.1
- ・一日あたり取扱金額、取扱株数、取扱銘柄でいずれもNo.1

## モーニングスター MORNINGSTAR

- ・投資信託評価サイトにおいて国内No.1の来訪者数

# 多様な事業分野でパイオニアでありNo.1である SBIグループ(2)



## 住信SBIネット銀行

- ・国内ネット銀行で最速、開業から538日で預金残高6,000億円を突破
- ・国内ネット銀行で最速、開業2期目の第4四半期に四半期ベースの黒字を達成
- ・日本初、ネット銀行とネット証券口座の本格的な連動が実現した「SBIハイブリッド預金」を開発・導入

## SBIアクサ生命保険

- ・日本初のインターネット専業生命保険会社として営業を開始。

## SBIカード

- ・国内カード業界初、「リアルタイム・キャッシュバック」「マルチバンク・システム」「米ドル決済サービス」を導入

## SBIモーゲージ

- ・日本初のモーゲージバンクとして設立
- ・「フラット35」融資実行額シェアNo.1

## SBIホールディングス

- ・No.1の登録者数・対応金融機関数を誇るアカウントアグリゲーション(口座一元管理)ソフト「MoneyLook」を提供
- ・No.1の利用者数・提携金融機関数を誇る比較・見積もりサイト「インズウェブ」「イー・ローン」を運営

## SBI大学院大学

- ・大学院として日本初、e-Learning授業を中心とした教育システム

# 「企業の社会性」を強く認識し、CSR活動にも注力

## SBI子ども希望財団(2005年10月6日設立)による社会貢献活動

SBIグループ各社は、直接的な社会貢献として、利益の中から適切な範囲内で寄付を実施

◆施設(児童養護施設・乳児院等)への寄付実績(2004~2008年度)

**・寄付金総額841百万円**

**・寄付を実施した施設数(延べ)623ヶ所**

※2004年度はSBIグループとしての活動、2005年度以降は財団としての活動

SBI子ども希望財団では、施設への寄付のほか、

- 児童養護施設に勤務する職員に対する研修の実施
- 施設退所後の児童の自立に向けた支援活動
- 「オレンジリボン・キャンペーン」(児童虐待防止の社会的啓発運動)の後援

などの活動を実施

## 第2部

# SBIグループの新たなステージにおける事業戦略

1. SBIグループを取り巻く今年度の事業環境
2. 2008年4月策定の新ビジョンと  
その達成のための戦略
3. 今後10年の飛躍に向けた  
戦略的な方向性

# 1. SBIグループを取り巻く今年度の事業環境

# 世界の主要株式市場は最安値圏から脱しつつある

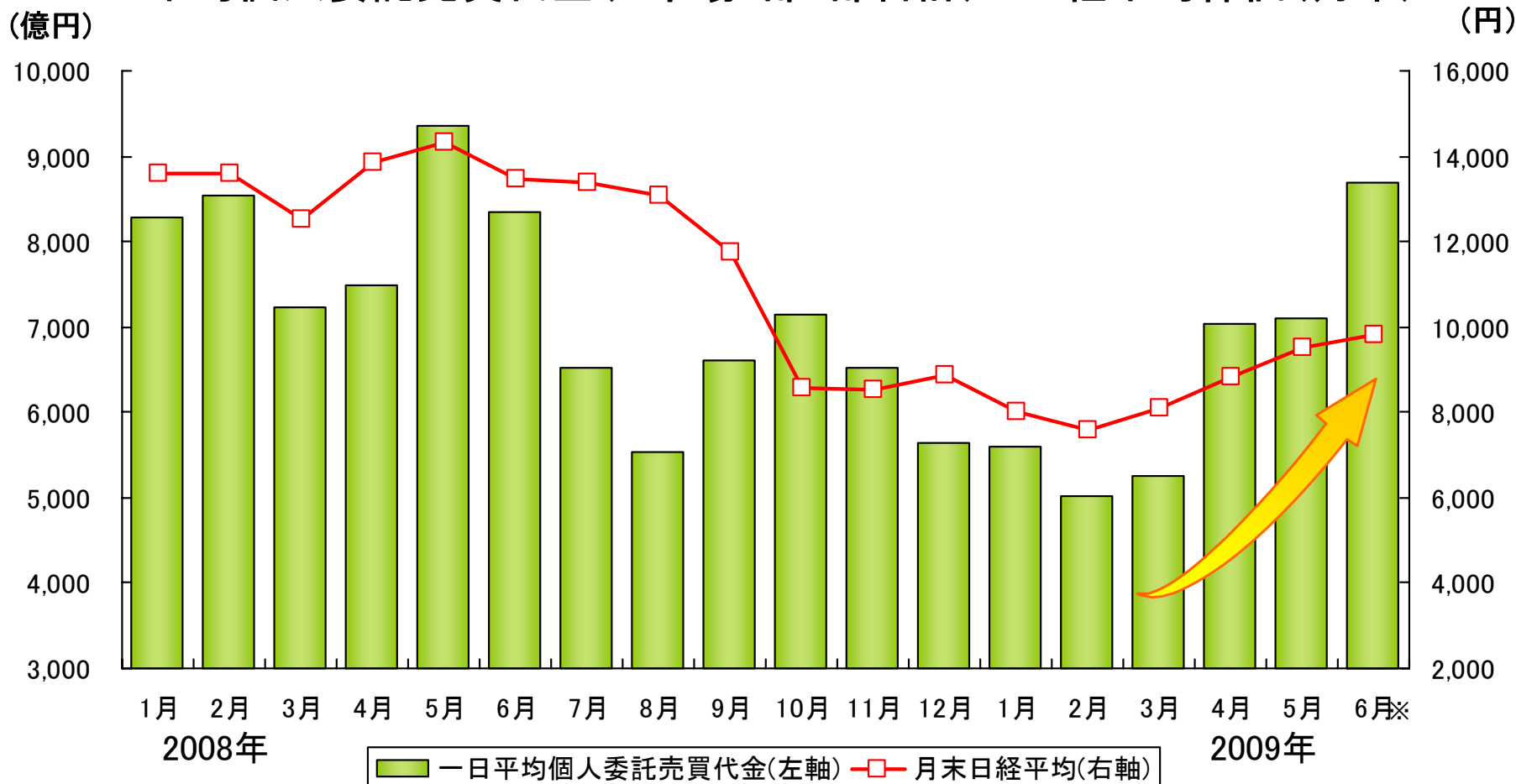
## 世界主要株式指数のリーマン・ショック(9月15日)後最安値と直近値の比較

	日経平均 (日本)	NYダウ (アメリカ)	DAX (ドイツ)	上海総合 指数 (中国)	RTS (ロシア)	SENSEX (インド)	HO CHI MINH (ベトナム)
最安値 ※	<b>7,054.98</b> (09/03/10)	<b>6,547.05</b> (09/03/09)	<b>3,666.41</b> (09/03/06)	<b>1,706.70</b> (08/11/04)	<b>498.20</b> (09/01/23)	<b>8,160.40</b> (09/03/09)	<b>235.50</b> (09/02/24)
直近値	<b>9,796.08</b> (09/06/25)	<b>8,299.86</b> (09/06/24)	<b>4,836.01</b> (09/06/24)	<b>2,925.05</b> (09/06/25)	<b>958.18</b> (09/06/24)	<b>14366.07</b> (09/06/25)	<b>453.76</b> (09/06/25)
上昇幅 (%)	<b>38.9</b>	<b>26.8</b>	<b>31.9</b>	<b>71.4</b>	<b>92.3</b>	<b>76.0</b>	<b>92.7</b>

※ リーマン・ショック(9月15日)以降に記録した最安値。

# 最悪の状態を脱しつつある日本の株式市場

一日平均個人委託売買代金(3市場1部2部合計)と日経平均株価(月末)



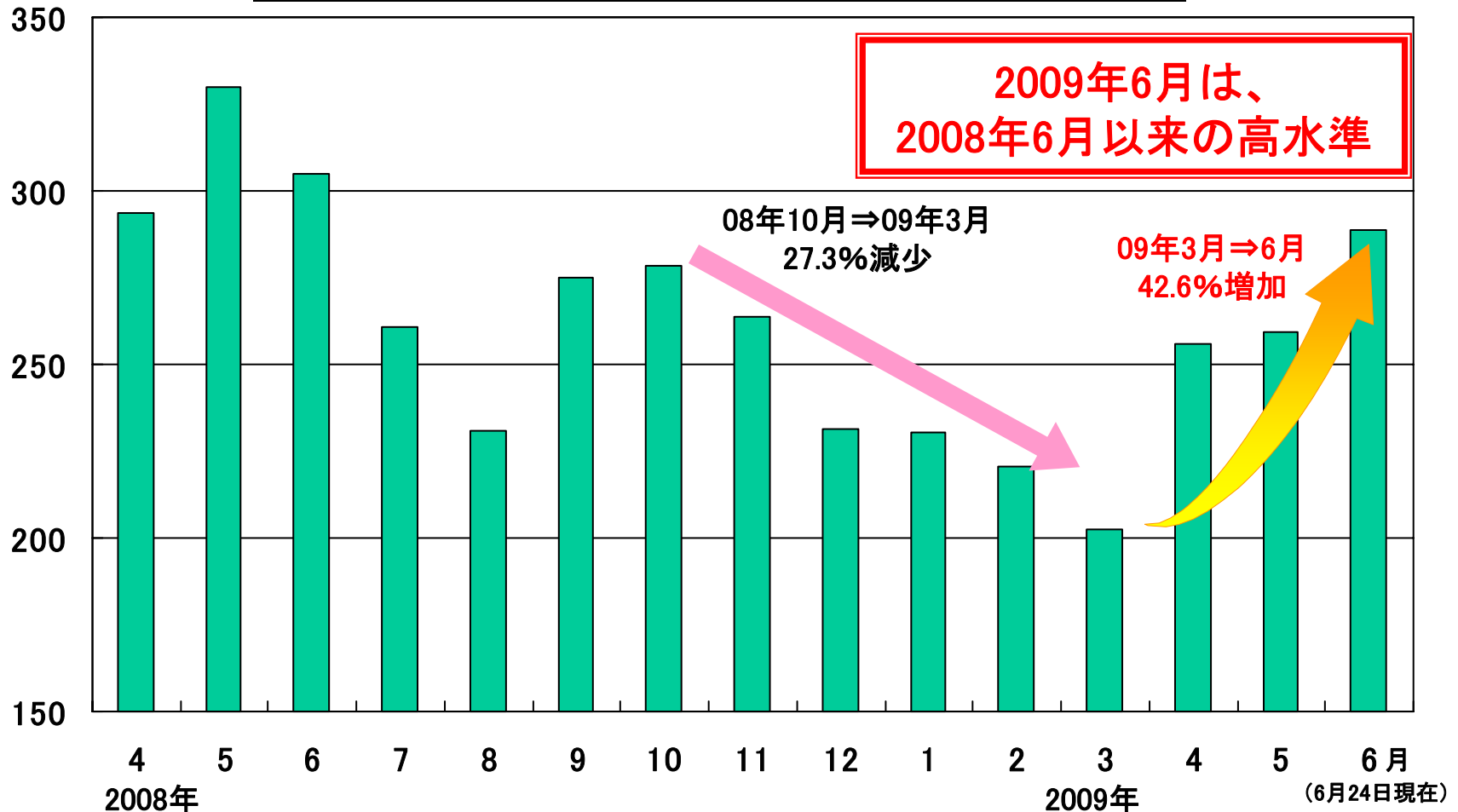
- ・ 一日平均個人委託売買代金は2月の5,010億円から4ヶ月連続で上昇し、6月には8,690億円に
- ・ 日経平均は2月の7,568円から6月には9,796円(25日)へと回復

# 増加に転じたSBI証券の1日平均株式委託売買代金

2008年10月以降減少が続いていた1日平均株式委託売買代金は、  
株式マーケットの復調にあわせて2009年4月に増加に転じる

## SBI証券 1日平均株式委託売買代金の推移

(単位:10億円)



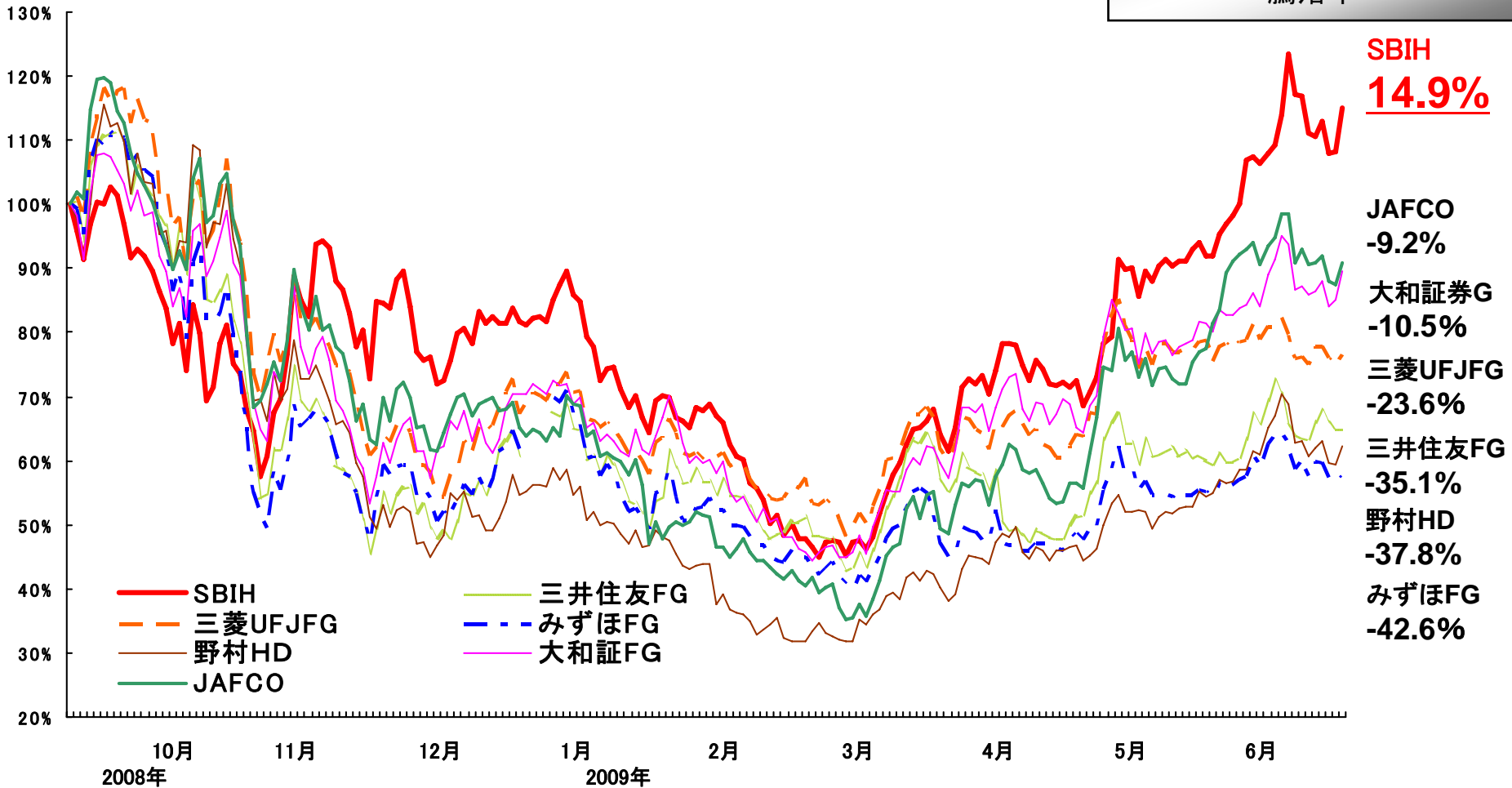
既に営業利益・純利益は、2008年度第3四半期を底に第4四半期にかけて増加



# リーマンショック以降の SBIホールディングスと他社株価の推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年6月25日)

2008年9月16日と比較した  
2009年6月25日時点の  
騰落率



# アセットマネジメント事業に見られる明るい兆し

## アセットマネジメント事業における IPO/M&A実績と見込み

	事業開始から 2007年3月期まで	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期 見込み
IPO・M&A社数	99	12	0	12 ※1

審査の厳格化、長期化の流れの中で上場延期が続いていたが、2010年3月期は現時点で12社のIPOまたはM&Aによるイグジットを見込む

※1 LP出資しているNew Horizon Capitalに組み入れられている銘柄から見込まれるExit件数(4件)を含みます。

※2 IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

## 2. 2008年4月策定の新ビジョンと その達成のための戦略

- (1) 強固な事業基盤の更なる拡大
- (2) 経営体質のスリム化と経営環境好転時への布石
- (3) シナジーの徹底追求による業績の拡大
- (4) 日本最大の金融ディストリビューターを目指して
- (5) 成長率の高い新興国への投資の本格化

# 「経営理念」と「ビジョン」

## 「経営理念」

経営トップの交代や環境変化があっても簡単に変更されることのない企業の長期的・普遍的な価値観や存在理由を体現するもの

## 「ビジョン」

望ましい組織の将来像を具体的に示すもので、現実妥当性や信頼性がなければならないものであり、現在のよう  
な変化の激しい時代では、中期的なもの

**外部環境の大きな変化等に対応する為、  
2008年4月に新たなビジョンを策定**

# SBIグループのビジョン (2008年4月策定)

- 5年後の2013年3月期は、1,000億円の営業利益を目標とする

その後も継続的に年率15%超の営業利益の成長を目指す。

- 2013年3月期の営業利益の構成は、アセットマネジメント事業  
ならびにブローカレッジ&インベストメントバンキング事業で3分  
の2、その他の事業で3分の1を目標とする

住宅不動産生態系、生活関連生態系ならびにシステム関連生態系を更に増殖させ、ファイナンシャル・サービス事業を含めた、証券市場の変動による影響が小さい事業分野を拡大し、収益の更なる安定化を目指す。

- 2013年3月期までに、営業利益の2分の1を海外で獲得するグ  
ローバル企業への転換を目指す

海外における収益基盤を拡大し、日本のSBIから世界のSBIへ。

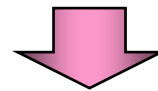
## (1) 強固な事業基盤の更なる拡大

# 現在のSBIグループを支え、 今後の成長の礎ともなる事業基盤

最悪の事業環境においても  
営業黒字を確保できた事業体質



- 約800万件に及ぶ顧客基盤
- 完成した金融生態系
- SBIグループ内のシナジー効果



今後の更なる拡大・発展

将来のSBIグループの礎

# 主要セグメント※1は最悪な事業環境下にあっても 営業黒字を確保できる事業体質を構築

## セグメント別連結営業利益

(単位:百万円)

	2008年3月期	2009年3月期
アセットマネジメント	16,481	2,594
ブローカレッジ & インベストメントバンキング	20,511	※2 5,714
ファイナンシャル・サービス	849	1,491
住宅不動産関連	8,093	923
システムソリューション	▲473	▲303

※1 アセットマネジメント事業、ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業、ファイナンシャル・サービス事業、住宅不動産関連事業の4事業

※2 SBI証券の完全子会社化に伴い新たに発生したのれんの償却2,794百万円が含まれます。



# 主要ベンチャーキャピタルとの比較

## 主要VC各社と当社アセットマネジメント事業の2009年3月期業績

(単位:億円、%)

	売上高	営業利益	前年同期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	160	26	▲84.3
JAFCO (※自己持ち分方式)	214	▲94	- (注2)
大和SMBCキャピタル	119	▲109	- (注3)
日本アジア投資	95	▲314	- (注4)

(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、他3社は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 前年同期の営業利益は109億円となっております。

(注3) 前年同期の営業利益は▲137億円となっております。

(注4) 前年同期の営業利益は▲52億円となっております。

(注5) 億円未満を四捨五入して表示しております。

記事

## ■日本アジア投資:

「～有利子負債の返済期限を延長するため、約60の取引金融機関と私的整理手続きの調整に入ったと発表した。投資環境の悪化で資金繰りが厳しくなっており、当面の返済負担を軽減し～」

## ■大和SMBCキャピタル:

「～大和証券グループ本社は～ベンチャーキャピタル子会社である大和SMBCキャピタルに対し、TOB(株式公開買い付け)を実施すると発表した。業績が低迷する大和キャピタルを非公開化して経営改革を進める～」

記事

# SBI証券の証券業界におけるポジショニング (2009年3月期連結業績)

## 口座数ランキング

単位:口座

1	野村 ※1	4,467,000
2	大和	3,244,000
3	日興 ※2	2,461,000
4	<b>SBI</b>	<b>1,866,508</b>
5	新光	1,067,000
6	マネックス	906,699
7	楽天	835,922
8	松井	783,879
9	カブドットコム	665,922
10	岡三	456,775

(出所:主要証券各社開示資料より当社にて把握しうる限りの情報を基に作成)

※ 三菱UFJは2007年6月まで開示  
参考:120.7万口座(2007年6月末時点)

※1 残有口座数

※2 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース。  
口座数は日興コーディアル証券のみ。

※3 単独

※4 野村は米国会計基準。

## 当期利益ランキング

単位:百万円

1	<b>SBI</b>	<b>10,148</b>
2	松井	6,921
3	カブドットコム ※3	3,643
4	東海東京	2,482
5	SMBCフレンド	1,559
6	岡三	▲1,880
7	マネックス	▲2,144
8	東洋	▲3,022
9	楽天	▲3,681
10	いちよし	▲4,804
11	コスモ	▲10,577
12	新光	▲13,468
13	日興 ※2	▲14,602
14	みずほインベ	▲25,004
15	みずほ	▲34,497
16	三菱UFJ	▲45,417
17	大和	▲85,039
18	野村 ※4	▲709,436

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)  
(連結、十万円以下は切り捨て)

## **(2) 経営体質のスリム化と経営環境好転時への布石**

# より強固な経営体質への転換を図るための グループ内組織再編成(1)

## 完全子会社化

**SBIフューチャーズ** (2009年3月期営業利益: ▲4.5億円)

国内商品先物市場の市場規模縮小等、事業環境が著しく悪化している為、  
商品取引受託業務を廃止し、株式交換による完全子会社化を実施

### 株式交換の概要

- ・ 株式交換の日程(予定)

4月27日	株式交換契約締結
7月27日	SBIフューチャーズ株式 最終売買日
7月28日	SBIフューチャーズ 上場廃止日
8月1日	株式交換 効力発生日

- ・ 株式割当比率

SBIフューチャーズ普通株式1株につき、SBIホールディングス普通株式3株

- ・ 株式交換により充当するSBIホールディングス自己株式数

普通株式23,040株(新株発行は行わない)

# より強固な経営体質への転換を図るための グループ内組織再編成(2)

## 売却

**SBIカードプロセッシング** (2009年3月期営業利益: ▲6.1億円)

ノン・コア事業であることからカード事業と切り離し、  
システムベンダーへの売却に向けて交渉中

## より成長できる環境への事業移管

**SBIイコール・クレジット** (2009年3月期営業利益: 2.3億円)

4月21日に全ての貸付業務を停止し、住信SBIネット銀行の  
個人ローン「ネットローン」への保証業務に注力。

## 事業効率を高めるための統合

**SBIカード** (2009年3月期営業利益: ▲5.0億円)

関連する事業を一体的に運営することで事業効率を高めることを  
目指し、SBIイコール・クレジットとの統合を予定

## より効率的な事業構成への変更

**イー・ゴルフ** (2009年3月期営業利益: ▲0.3億円)

オンラインのゴルフ場予約サービスによる、ゴルフ場への送客事業は、不採算な全国展開  
サービスを停止し、顧客ロイヤルティの高い中部・  
関西圏への送客に特化。

# 市況低迷時の積極的な投資実行による 将来の利益の拡大

市況低迷時は有望企業への投資が割安に実行できるため、  
将来のキャピタルゲインの拡大が期待できる。

アセットマネジメント事業における投資実行額

単位: 百万円  
(投資会社数)

	2009年3月期累計	(参考) 2008年3月期累計
<b>【ファンドによる投資分】</b>	82,013 (105社)	96,596 (175社)
内 株式等	26,277 (57社)	40,444 (104社)
内 その他 (社債等)	55,736 (48社)	56,151 (71社)
<b>【直接投資分】</b>	13,165 (13社)	4,444 (33社)
内 株式等	11,224 (11社)	4,444 (33社)
内 その他 (社債等)	1,940 (2社)	—
<b>【合計】</b>	95,179 (118社)	101,041 (208社)
<b>【比較: JAFCO】</b>	32,546 (106社)	39,094 (168社)

注) 1社に対し各第1、第2、第3、第4四半期にわたって複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。

(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計)

# 不況時にシェアを伸ばすことが 好況時の大幅な利益拡大をもたらす

中核会社であるSBI証券の営業利益は、株式市場の低迷を受け減少しているが、口座数・個人株式委託売買代金シェアは逆に上昇

2006年3月期  
通期

2009年3月期  
通期

## SBIグループ証券子会社の営業利益

**380億円** (合算)

SBIイー・トレード証券(連結): 300億円  
旧SBI証券: 80億円

**96億円**

SBI証券

口座数と  
売買代金シェアは  
拡大しており、  
相場回復時には  
大きく利益が  
拡大することが  
見込まれる

**123万口座** ※1

口座数

+66万口座

**189万口座**

(2009年5月末)

## 個人株式委託売買代金シェア ※2

イー・トレード	23.1%	+15.6%ポイント	SBI証券	38.7%
楽天証券	11.1		楽天証券	14.4
松井証券	10.0		松井証券	7.7
マネックス	8.0		マネックス	6.3
カブドットコム	5.2		カブドットコム	5.9

※1 SBIイー・トレード証券と旧SBI証券の合算

出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※2 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算



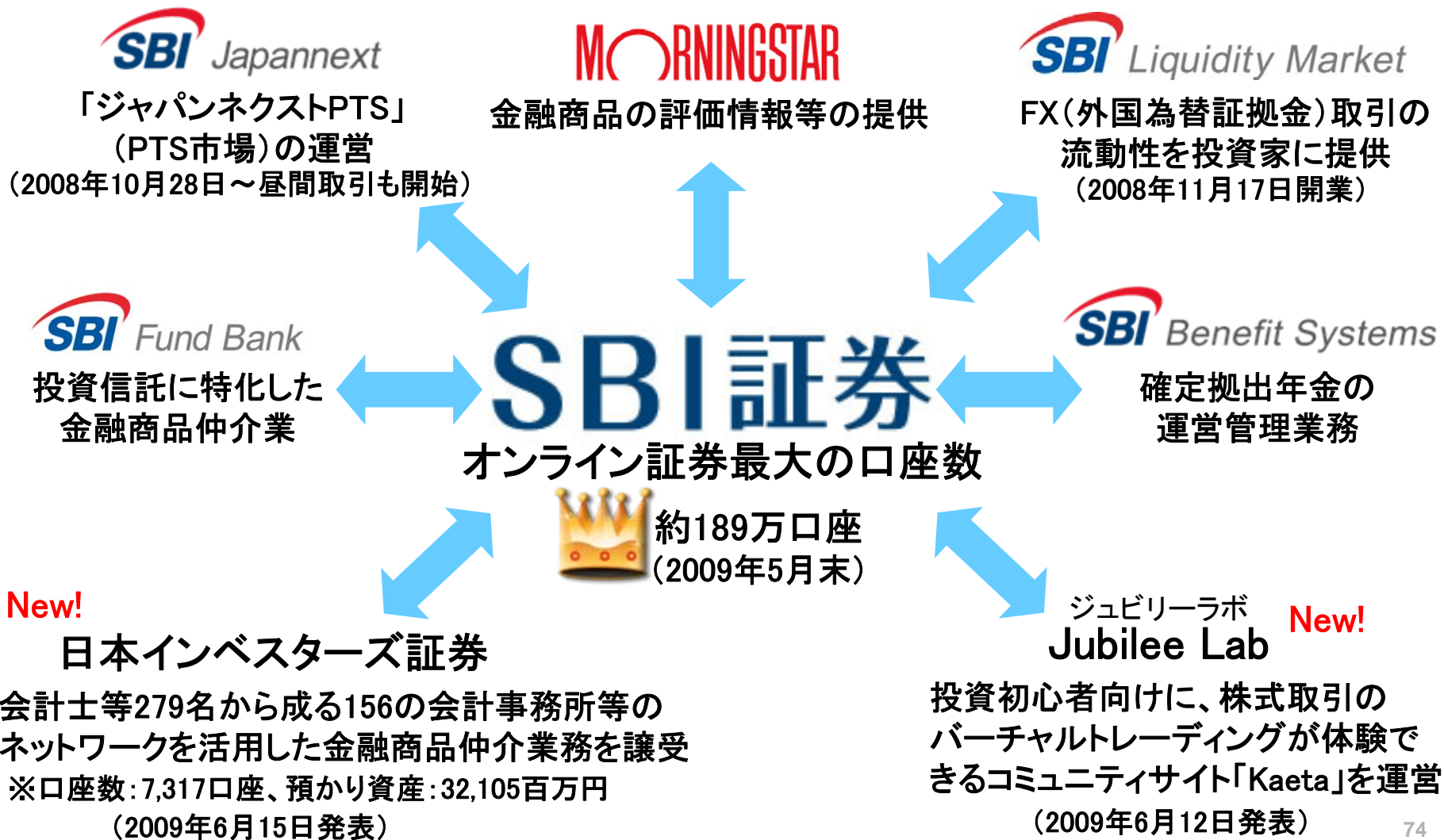
### **(3) シナジーの徹底追求による業績の拡大**

- ① 証券事業の更なる拡大につながるシナジー**
- ② シナジーの発揮による新事業の早期黒字化**
- ③ 新たなシナジーの可能性**

## ① 証券事業の更なる拡大につながるシナジー

# SBI証券の更なる事業基盤の拡充

「リアルBased Onネット証券」を実現するべく、  
グループ内外のシナジー効果を最大限発揮させる



# 最良執行の流れの加速により期待される ジャパンネクストPTSの取引拡大

記事

金融商品取引法第40条の2 金融商品取引業者は、顧客の注文について、**最良の取引の条件で執行するための方針及び方法**を定めなければならない

従来の最良執行  
||  
取引所で執行すること

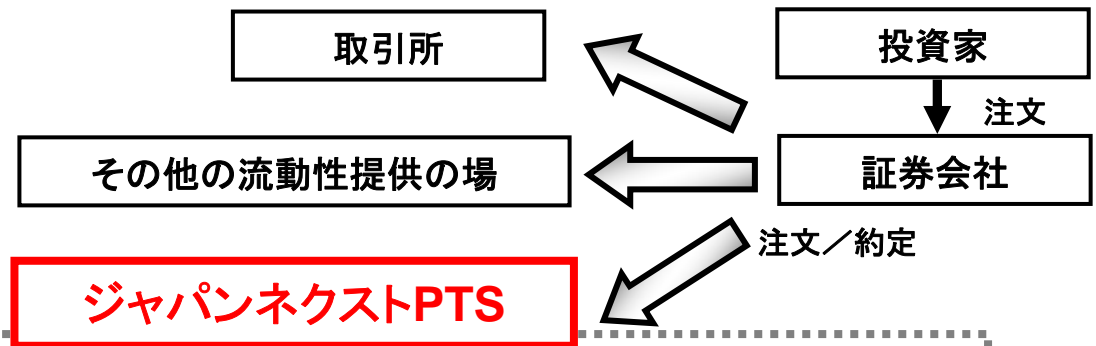
流動性  
の分断

これからの最良執行  
||  
取引所やPTS等々を比べて  
最も有利な市場で執行すること

最良執行には「価格」「スピード」「約定可能性」などを考慮

【クレディ・スイス証券】  
最も有利な市場を選んで、  
自動的に売買を執行

SBI証券でも、投資家にとって  
有利な市場を自動的に選んで  
注文を行うスマートオーダー  
ルーティング(SOR)機能を  
導入すべく準備を検討中



「高性能システム」、「小さな呼値の刻み」  
などを特徴とし、流動性を増やしつつある市場が  
今後証券会社や投資家に最良執行機会を提供  
していくことになる

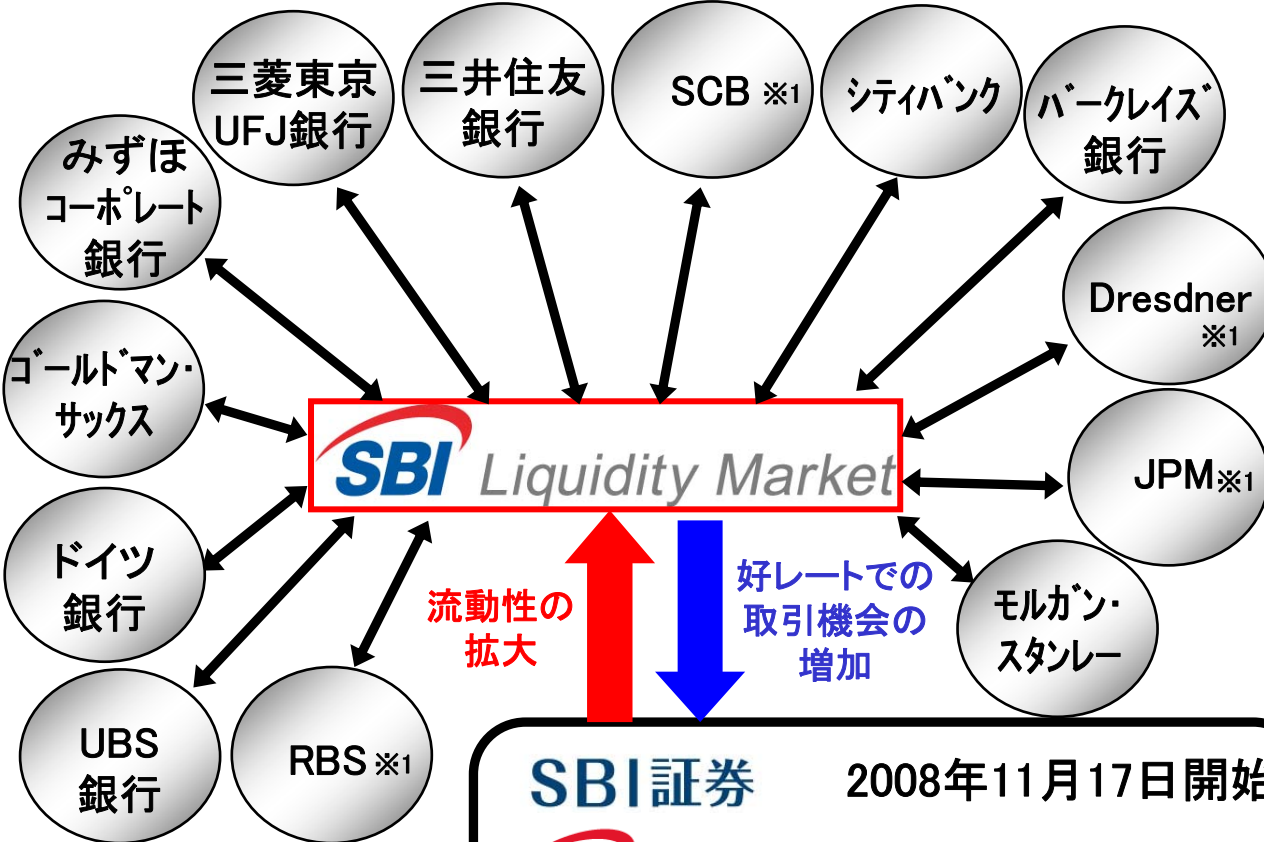
さらに今年度中に数社の外資系証券が  
ジャパンネクストPTSへの参加を準備中

# SBIリクイディティ・マーケットにおける流動性の拡大は 投資家に更なる利便性の向上をもたらす



カウンターパーティー群

欧米主要金融機関及び国内大手銀行 計13行  
(この他、3金融機関と年内開始に向けて交渉中)



流動性の  
拡大

好レートでの  
取引機会の  
増加

**SBI** Liquidity Market

(2008年11月17日開業)

	口座数 (SBI FX α)	1日平均 取引数量(枚)
09年5月	121,621	294,534

【参考】 くりっく365

(2005年7月開業)

	口座数	1日平均 取引数量(枚)
09年5月	149,236	279,513

**SBI証券**

2008年11月17日開始

**SBI Futures**

2009年1月26日開始

住信SBIネット銀行

2009年夏開始に

**SBI Sumishin Net Bank**

向けて準備中

今後は、グループ外の  
証券会社等と接続する  
ことで、更なる流動性  
(取引量)の拡大を図る

※1 各社略称  
RBS・・・ロイヤルバンク・オブ・スコットランド  
SCB・・・スタンダード・チャータード銀行  
Dresdner・・・ドレスナー・クライノオート証券  
JPM・・・JPモルガン・チェース銀行

# FX事業者への規制強化の動きは SBI証券にとってプラスの可能性も

## 金融庁がFX事業者に対する規制強化案を発表

### 主な規制強化の内容

- 区分管理の方法を金銭信託に一本化
- 「ロスカットルール」の整備・遵守の義務付け
- 証拠金倍率(レバレッジ)の上限を、2010年には50倍に、2011年には25倍に引き下げ



規制に対応し事業を継続できる経営体力を有する  
大手事業者へ顧客が移動する可能性がある

## ② シナジーの発揮による新事業の早期黒字化

# SBI証券、住信SBIネット銀行とネット生損保

ネット証券の顧客基盤を活かしながら、ネット証券・ネット銀行・ネット損保がそれぞれ販売チャネルとなり、ネット生損保事業の早期黒字化を図る

## SBI証券

**189万口座**  
(09年5月末)

## 住信SBIネット銀行



**46万口座**  
(09年5月末)

【取り扱い商品】

- ・ **SBI損保**の自動車保険
- ・ **SBIアクサ生命**の各種保険商品

## SBI損保

・09年4月、銀行窓販売チャネルとして  
**住信SBIネット銀行**での取り扱い開始

【ネット銀行経由の成約件数シェア】  
**5月:全体の3.05%** (4月:0.59%)

・09年6月、**SBI損保**で**SBIアクサ生命**  
の保険商品の取り扱いを開始



【代理店チャネルの契約件数シェア】

- ・ **SBI証券** : **11.0%**
- ・ **住信SBIネット銀行**: **8.9%**

(※2009年5月実績)

*Synergy*



# シナジーを発揮させ三大新規事業の早期黒字化を図る

Holdings

## ～現在までの進捗と黒字化達成のための目標～

### 住信SBIネット銀行 (07年9月24日開業)

- ・口座数 : 2009年3月期末は41万8千口座となり、当局へ提出した3期目の目標(2010年3月期に40万口座)を、**既に1年以上前倒しで達成**。
- ・預金残高: 2010年3月期末の目標7,000億円を目前に、順調に進捗(09年6月8日現在:6,779億円)。
- ・収益 : 09年1月に**単月黒字化を達成**、2009年3月期4Qには**経常利益で1.37億円を計上し四半期ベースで黒字化を達成**。2009年4月、5月ともに単月黒字となり、2010年3月期1Qも四半期黒字が見込まれ、**2010年3月期の単年度黒字化の目標に向けて、好調に推移**。

### SBI損保 (08年1月16日開業)

- ・契約件数: 2009年3月期末は4万2千件の実績。2010年3月期末の社内目標15万件に向けて順調に進捗中(09年6月25日現在:6万件超)。当局へ提出した目標(2013年3月期に30万口座)を、**1年前倒しの2012年3月期での達成を目指す**。
- ・収益 : 2009年3月期の収入保険料(売上)は13億78百万円となり、当局へ提出した2013年3月期の**単年度黒字化目標に向けて、安定的に推移**。

### (08年4月7日開業)

- ・契約件数 : 2009年3月期末は5千4百件と当初目標を下回ったものの、節約志向等を背景に**2009年度に入り急速に伸長**。当局へ提出した5期目の目標(2013年3月期に20万口座)に向けて、知名度やサービスの向上を図る。
- ・収益 : 2009年3月期の経常収益(売上)は140百万円。2013年3月期の単年度黒字化を目指す。<sup>80</sup>

# 本格稼働を始めたSBI損保



～今年度(2010年3月期)の契約件数目標:15万件を目指して～

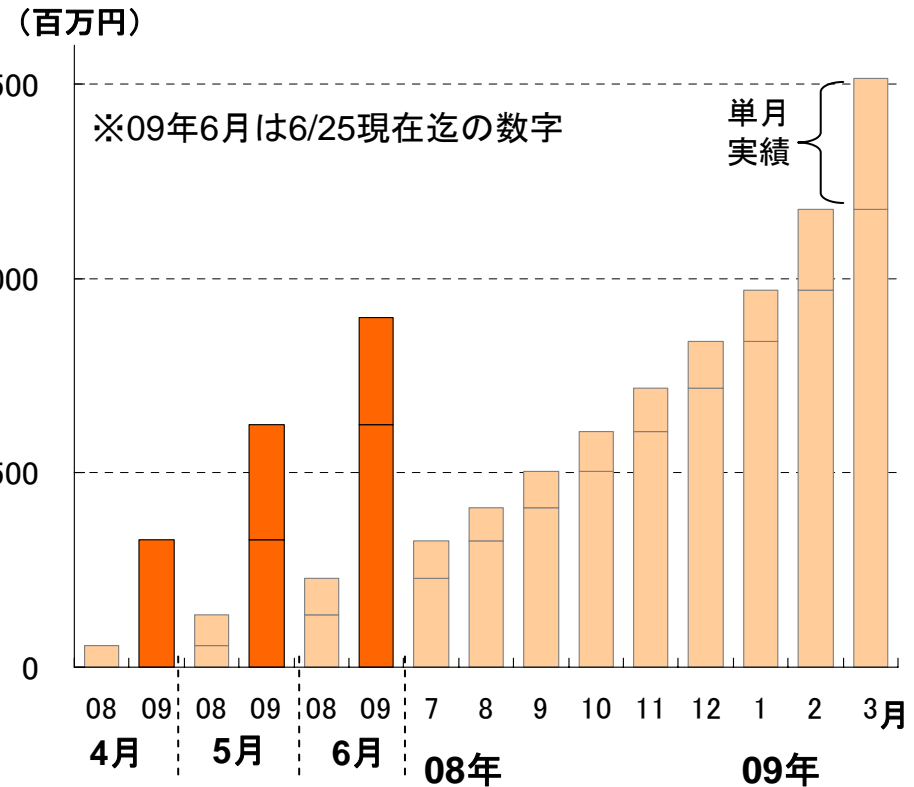
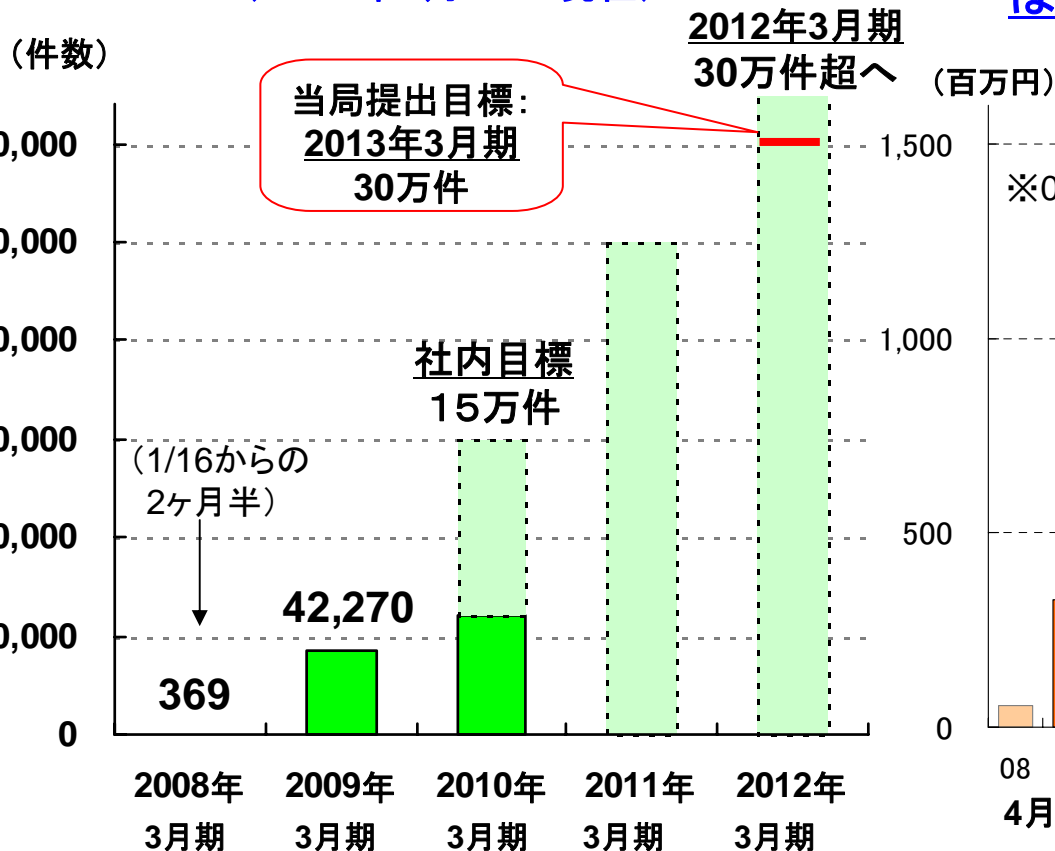
## 契約件数と元受収入保険料の進捗状況

自動車保険 契約数(計上ベース※)・累計

元受収入保険料(計上ベース※)・年間累計

開業来累計契約件数:6万件超  
(2009年6月25日現在)

09年4～6月(6/25現在迄)の収入保険料  
は、前年同期間の約6倍の約9億円に



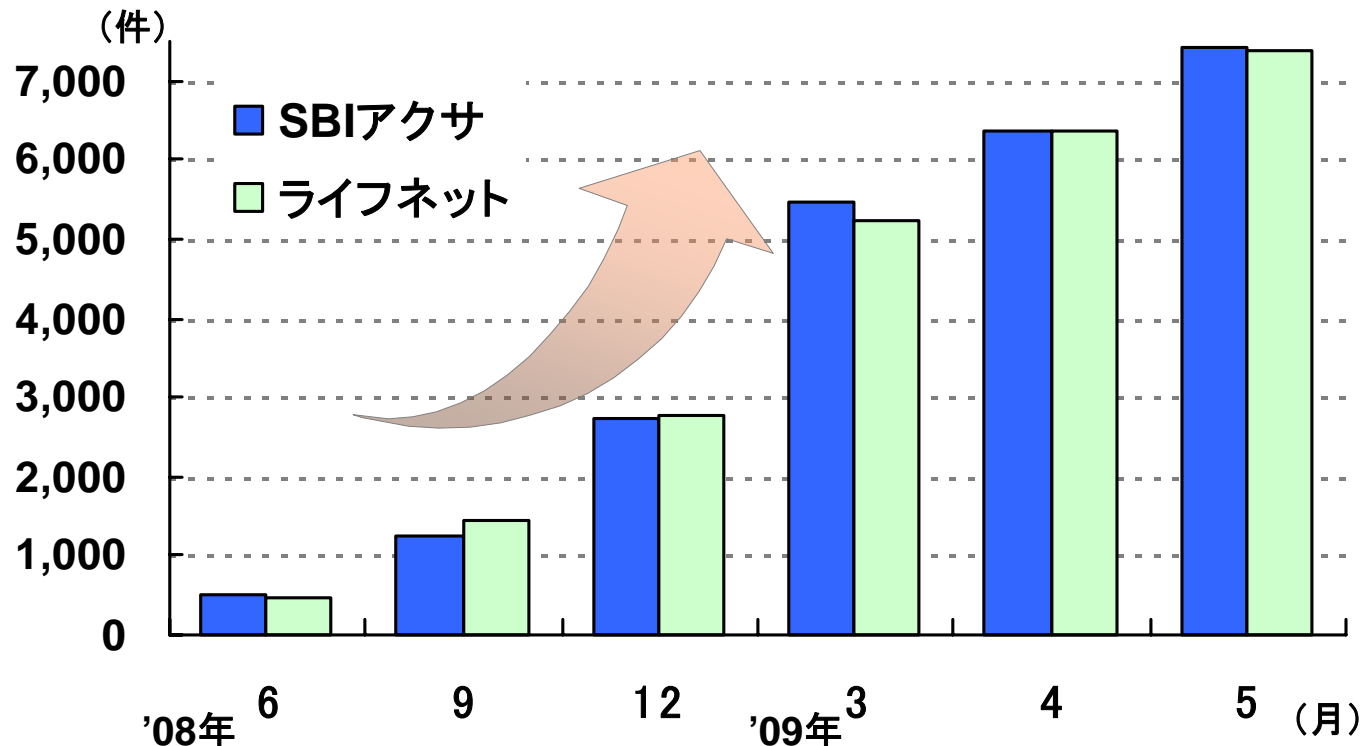
※計上=保険料の入金完了

# 伸び悩む生命保険市場でネット生保は急成長

～ 2009年に入り、ネット生保は知名度の認知浸透や手数料値下げなどを背景に、契約件数は月間約1,000件のペースを確保するなど、急速に伸長～

「SBIアクサ生命」と「ライフネット生命」 新規契約件数の推移(累計)

既存ダイレクト生保のチューリッヒ生命(月間平均666件)、損保ジャパンDIY生命(同431件)を大きく上回る水準で推移(※)



### ③ 新たなシナジーの可能性

- ( i ) ウォールストリート・ジャーナル・ジャパン設立により、金融・経済コンテンツのプロバイダーとなることで、既存の金融ビジネスとの新たなシナジーの創出を図る
- ( ii ) 「SBIカードVISA」の発行により、グループ各社の新規顧客開拓や取引数の拡大などのシナジーを創出
- ( iii ) 顧客の流れは「From SBI証券」から「To SBI証券」

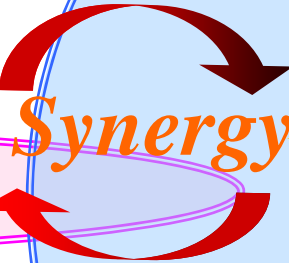
( i ) ウォールストリート・ジャーナル・ジャパン設立により、  
**金融・経済コンテンツのプロバイダーとなることで、既存  
 の金融ビジネスとの新たなシナジーの創出を図る**

日本のマーケットへ多大な影響を与え、投資判断の材料として重要視されている  
 米国有力紙の記事を、個人投資家がインターネットやモバイルで容易に利用可能に

**ウォール・ストリート・  
 ジャーナル・ジャパン**

・株式市場や為替市場に多大な影響を  
 与える海外のニュース・記事を、イン  
 ターネットを通じて日本語で提供

・投資判断のための良質な記事・情  
 報源を提供することで、投資家の取  
 引の活発化へ



**SBI証券**

・ネット証券で国内最多の顧客基盤

【個人投資家】

・株取引: **189万口座**  
 (09年5月末)

・FX取引: **12万口座**  
 (09年5月末)

**住信SBIネット銀行**



・「外貨預金」「FX取引」など、  
 海外の情報を必要とする  
 サービスの提供

# (ii)「SBIカードVISA」の発行により、グループ各社の新規顧客 開拓や取引数の拡大などのシナジーを創出



## 「SBIカード(VISA)」と「SBI証券・住信SBIネット銀行・SBI損保・SBIアクサ生命」

～ 09年5月末、カード発行枚数は5万件超となり、順調に顧客基盤が拡大 ～

**SBIカードVISA**  
スケジュール:

- ・2009年2月、VISAカードのライセンス取得
- ・2009年度中を目処に、VISAカード発行を開始予定

### 【 設計中の主なサービス 】 ～SBIグループ顧客への優遇サービスを検討中～



- ・ポイントサービス: SBIグループ内企業の取引状況等に応じた高ポイントの付与
- ・レコメンドツール: 居住地域等の属性データを基に顧客ニーズを把握、SBIグループの商品をレコメンド
- ・ショッピングモール: ポイントを活用した、様々な特典や優遇サービスの提供



SBIグループの顧客基盤

SBI証券

住信SBIネット銀行  
SBI Sumishin Net Bank

SBI損保

SBI アクサ生命

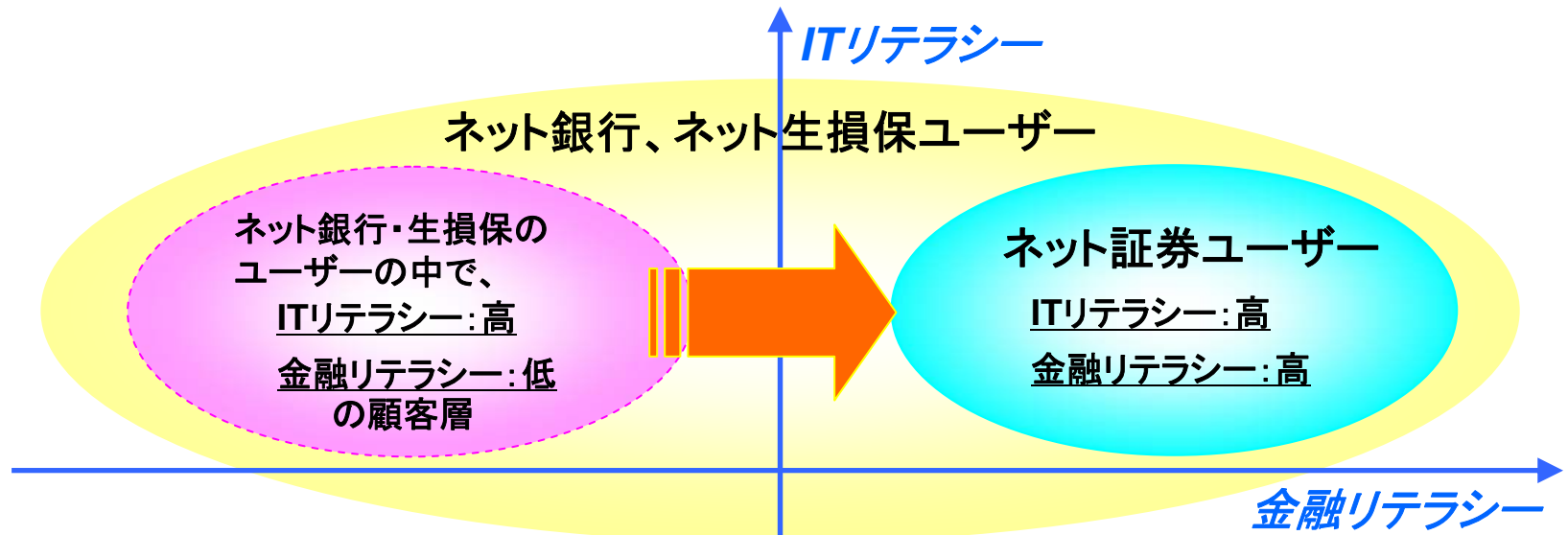
・・・etc. 85



# (iii) 顧客の流れは「From SBI証券」から「To SBI証券」

銀行・証券・保険の更なる連携は  
将来のSBI証券の飛躍的成長へもつながる

銀行・保険の対象顧客数は証券の対象顧客層をはるかに上回る



ネット銀行及び生損保の顧客のうち、ITリテラシーが高いが金融リテラシーはまだそれほど高くない顧客層に対し、豊富な金融サービスを提供していくことで金融リテラシーが向上してくる

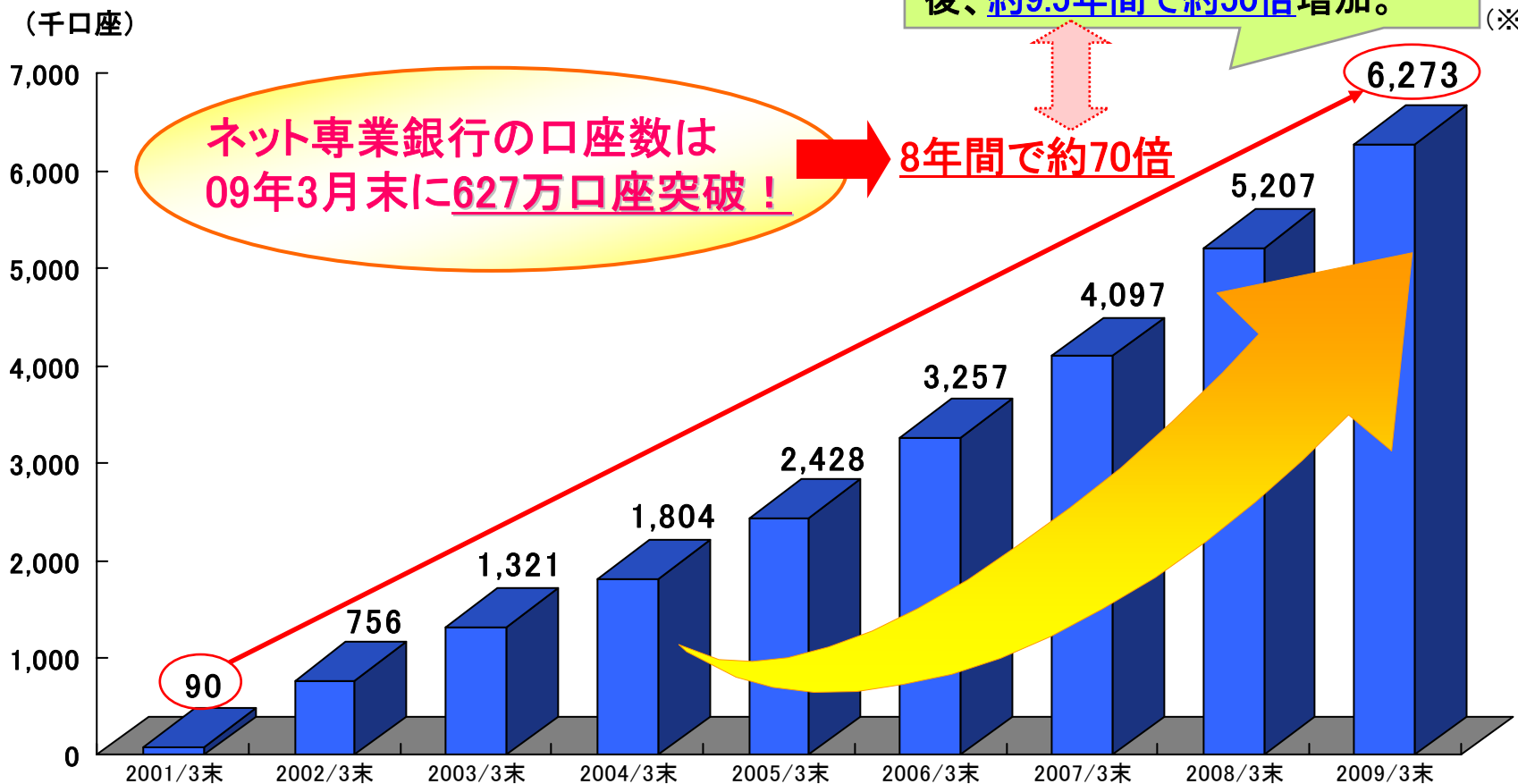
将来のSBI証券の顧客拡大へ

# ネット証券の口座数増加ペースを上回るスピードで 拡大するネット専門銀行の口座数

## インターネット専門銀行の口座数推移

(2001年3月末～2009年3月末) (※1)

ネット証券の口座数は09年3月末時点で約1,501万口座。統計開始後、約9.5年間で約50倍増加。 (※2)



(※1) 各行公表資料より当社にて集計。なお、インターネット専門銀行はジャパネット銀行、ソニー銀行、イーバンク銀行、住信SBIネット銀行。住信SBIネット銀行は07年9月開業。

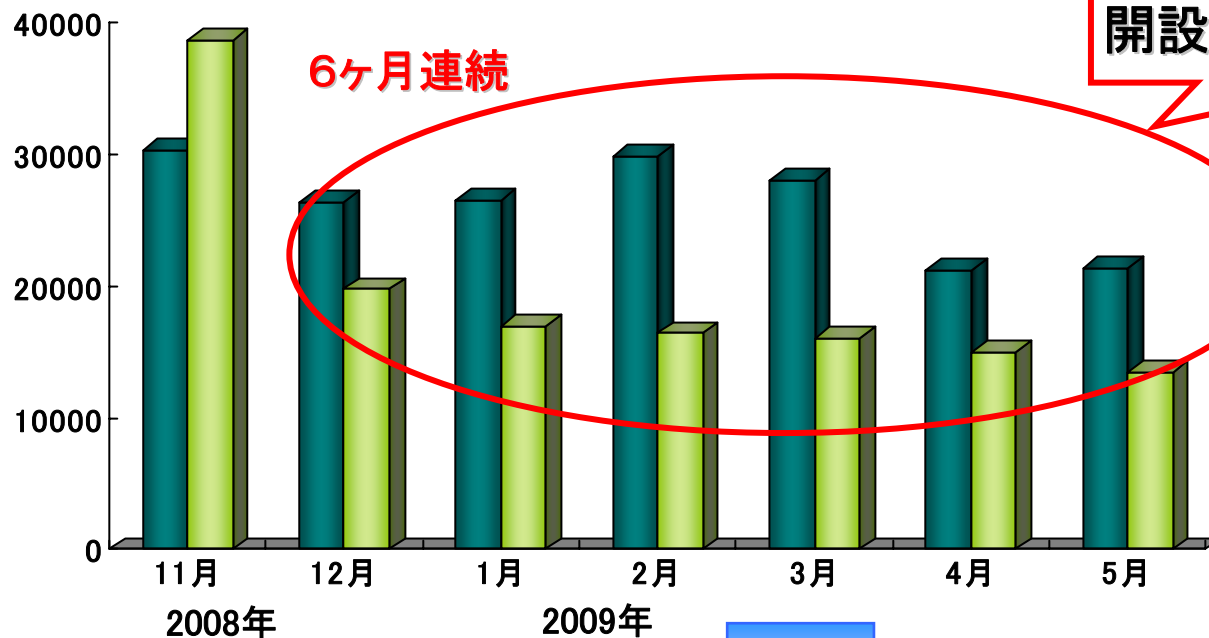
(※2) データ出所：日本証券業協会「インターネット取引に関する調査結果」(2009年3月末)、統計開始は1999年10月末。



# 「証券から銀行へ」から「銀行から証券へ」

現在のSBIグループの顧客の流れは、SBI証券⇒住信SBIネット銀行

住信SBIネット銀行とSBI証券の月間口座開設数の推移  
(2008年11月末～2009年5月末)



住信SBIネット銀行の口座開設数がSBI証券を上回る

■ 住信SBIネット銀行  
(口座数: 461,085)

■ SBI証券  
(口座数: 1,894,953)

※口座数は2009年5月末現在

将来的には、住信SBIネット銀行⇒SBI証券への顧客移動へ

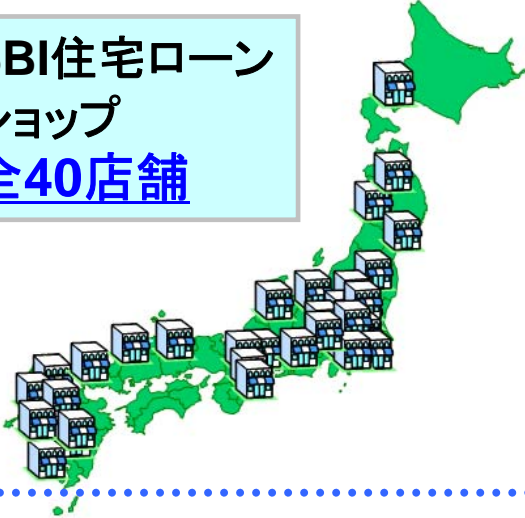
**(4) 日本最大の金融ディストリビューターを目指して**

# 「新・マネープラザ構想」

SBIグループ内外の金融商品を取り扱う来店型金融ワンストップ・サービスを展開

## SBIグループ既存店舗

SBI住宅ローン  
ショップ  
全40店舗



SBI証券  
全23店舗



「SBIマネープラザ」と  
SBI住宅ローンショップ  
やSBI証券他、SBI  
グループ既存店舗との  
連携についても計画中

住宅ローンを  
借りたい

同時に保険を  
見直したい

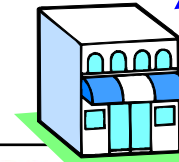
資産運用の相  
談もしたい



1か所で  
完結！

- ・住宅ローン
- ・生命保険
- ・証券仲介

住宅ローンショップFCオーナーの出店  
を中心に今年度100店舗開設を目指す



FCオーナーは、もともと  
地域の有力保険代理店の  
の方が多い



# SBIオートサポートを活用した 自動車関連金融商品のリアルチャネルへの提供



30%出資

- ・オークション会場運営ノウハウ(国内3ヶ所運営)
- ・会員企業: 14,000社以上
- ・年間総出品台数: 約70万台



70%出資



【自動車関連金融商品】

**SBIオートサポート**  
2008/10/14 営業開始  
中古車販売業者を通じた購入者への金融サービス提供を支援

**SBI損保**  
自動車保険

住信SBIネット銀行

**SBI Sumishin Net Bank**  
オートローン

2009年7月末より  
サービス開始予定

**中古車販売業者**  
登録数: 1,053社 ※



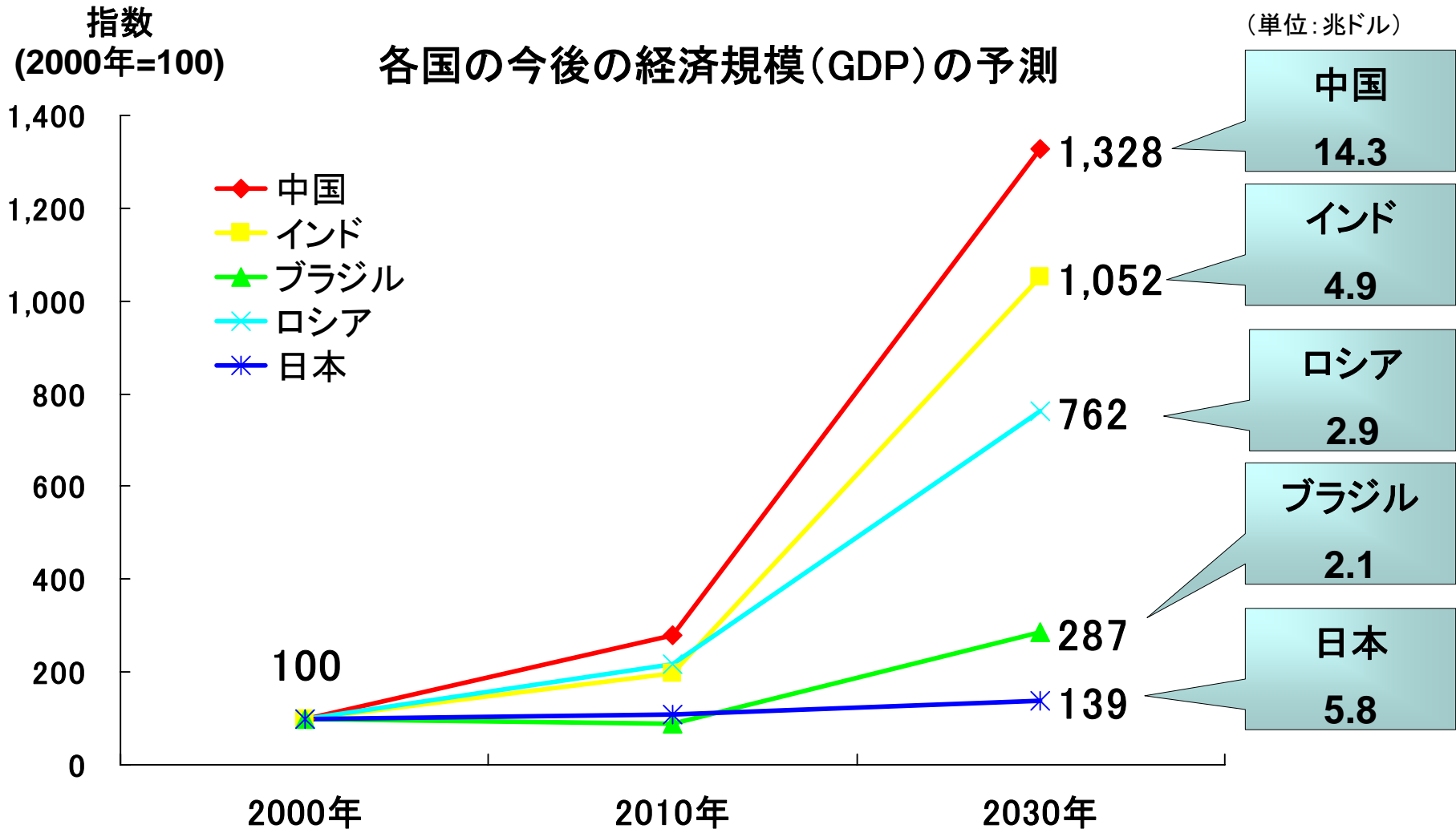
## (5) 成長率の高い新興国への投資の本格化

# 成長を続ける海外新興国(BRICs)

～新興国は2010年以降急速に成長することが予測される～

2030年のGDP予測

(単位:兆ドル)



# New Horizon Fund の運用状況

- 2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに6社が上場
- 一部売却等により、08年度は46億円の営業利益を計上
- 設立から08年度末までの累計営業利益では77億円
- 08年度4Qより損益を四半期毎に計上するため、各四半期の株式売却が即座に収益インパクトに

(単位:百万USDドル)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン		
				2008年 3月末	2009年 3月末	6月25日現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	12.9	A株		63.7	26.4	27.1
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	5.9	A株		144.6	66.6	75.7
China Printing & Dyeing Holding	-	普通株		0.2	-	※1 -
Yingli Green Energy Holding	-	普通株		4.5	-	-
Kingsoft	9.4	普通株		2.3	4.4	13.2
Goldwind Science and Technology	1.2	A株		124.9	29.9	31.0
China Stem Cells Holdings	4.1	プレIPO	2009	17.6	17.6	17.6
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	プレM&A	2010	5.6	5.6	5.6
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010	15.0	15.0	15.0
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレIPO	2011	79.1	79.1	79.1
<b>合計</b>	<b>68.4</b>			<b>457.5</b>	<b>244.6</b>	<b>264.3</b>

IPO済  
時価評価

IPO/M&A  
未済  
予想評価

(約458億円) (約240億円) (約253億円)

## 【受領分配金額】※2

【09年度以降の見積額】(2009年6月25日現在の見込)

設立～2007年度	2008年度1-3Q	2008年度4Q	2009年度	2010年度	2011年度	09年度以降の 総分配見積額
9億円	38億円	23億円	72億円	30億円	32億円	134億円

注1: 分配金の受領は、ロックアップの外れる09年以降本格化する見込みです。

注2: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※1 清算中 ※2 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。

# 2号ファンド・New Horizon Capitalも高パフォーマンスを見込む

2号ファンドの投資企業14社のうち、すでに1社がイグジット済み  
その他の6社についても今期～来期のIPOまたはM&Aによるイグジットを予定

## イグジット済銘柄: 1社

会社名	EXIT形式	時期
GCL	M&A	2009年6月23日















## イグジット予定銘柄: 6社

※6月26日時点の見込みであり、変更となる可能性があります。

会社名	EXIT形式	予定時期
BBMG	IPO	2009年7月
New Century	M&A	2009年下期
Meihua	M&A	2009年中
Navinfo	IPO	2010年上期
YuHeng	IPO	2010年下期
Rong Sheng	M&A	2010年中



# 海外有力企業との提携により設立したファンド

ファンド名(略称)	運用開始時期	パートナー	出資金額	SBIH 出資比率
New Horizon Fund 	05年	TEMASEK	100百万USD	50%
清華大学ファンド 	08年3月	清華ホールディングス	30百万USD	99%
北京大学ファンド 	09年2月	北京大青島環宇	100百万USD	50%
中国三社との共同ファンド 	09年5月	招商証券、源裕投資、中信銀行	Offshore: 約20.5百万USD (SBIH) Onshore: 約8.8百万USD (中国側)	
SBI-METROPOL Investment Fund 	09年7月(予定)	IFC METROPOL	100百万USD	50%
India Japan Fund 	08年4月	インド国営銀行	100百万USD	95%
Vietnam Japan Fund 	08年4月	FPT	100百万USD	90%
SBI SOI Fund 	08年6月	慶応大学	5億円	100%
Hungary Fund 	09年5月	MFB Invest Ltd. (ハンガリー開発銀行の100%子会社)	100百万EUR	60%
Fullerton Asia Financials Fund 	08年10月 (09年6月EXIT済)	Fullerton Fund Management Company Ltd (TEMASEKの100%子会社)	60百万USD	50%
台湾ファンド 	08年11月	台湾のIT企業創業者	22.5百万USD	66.7%
SBI PRIVATE EQUITY FUND 	09年上期中(予定)	—	1000億KRW	-
MASDAR-SBI Fund 	09年6月	Masdar Clean Tech Fund	20百万USD	50%
Malaysia Fund 	09年7月(予定)	PNB Equity Resource Corporation	50百万USD	50%

# 海外VCファンドの現在の運用状況

## New Horizon Fund

比較的簿価の低いNew Horizon Fundは、中国株式市場がやや持ち直す中、継続して保有株の売却を実施。09年4月以降の税引後売却額は合計で3,895百万円。

2010年3月期第1四半期の保有株式売却状況(6月25日時点)

	Zoomlion	Goldwind	Kingsoft
株数	286万株	300万株	2,943万株
税引後売却額	842百万円	1,615百万円	1,436百万円

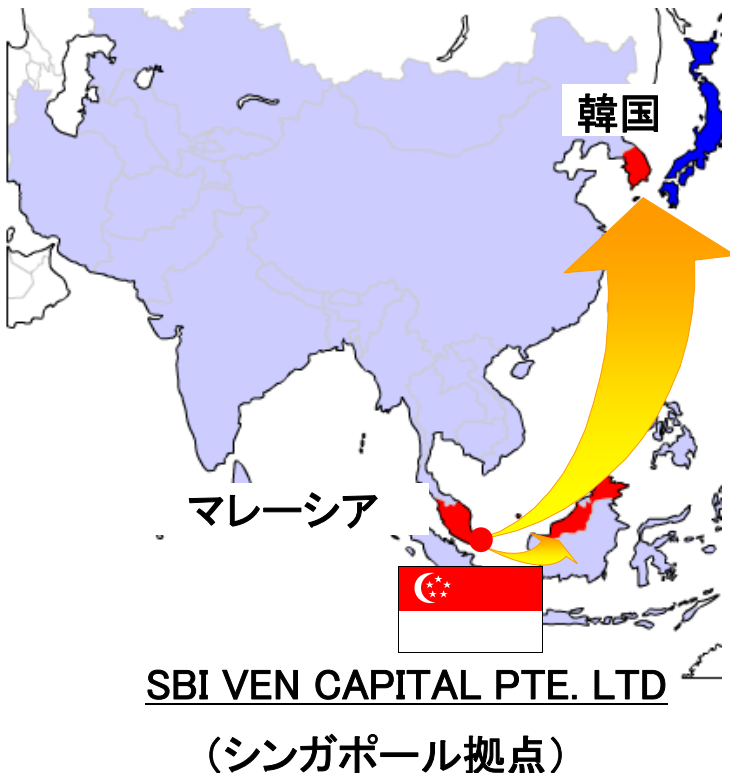
・休止していた投資を、一部の海外ファンドでは再開

## Fullerton Asia Financial Fund

08年10月に運用を開始したFullerton Asia Financial Fundは、香港・台湾・東南アジア諸国での運用が好調に推移。保有分株式の売却を6月19日までに行い、売却分の年率換算利回りは55.2%。

# 海外の有力企業との提携による新規ファンド 設立進捗状況

～ 09年6月、マレーシア国営の資産運用機関とも新たに提携 ～



- ・マレーシア: 6月8日、マレーシア国営の資産運用機関Permodalan Nasional Berhadの100%子会社PNB Equityと投資ファンド設立で**最終契約を締結**。アセアン諸国、インド、中国の有望企業を投資対象とし、出資約束金額は5,000万米ドル(SBI出資比率50%)の予定

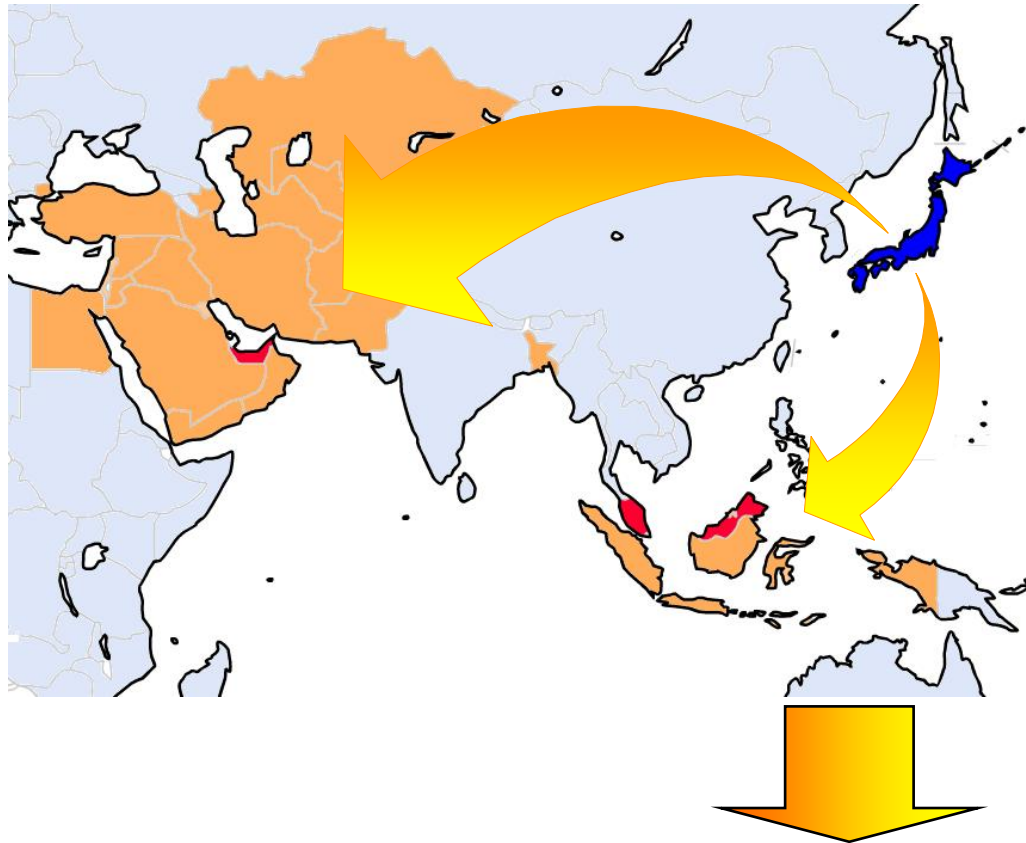


- ・韓国: 09年度上期中を目処に**最低約75億円規模の新たなファンド**を韓国にて設立する予定



# イスラム経済圏への進出を加速

既にイスラム圏の国々とのリレーション構築を開始済み



アラブ首長国連邦  
(UAE)



政府系 Masdar Clean  
Tech Fundとファンド設立

マレーシア



国営資産運用機関子会社  
PNB Equityとファンド設立

これらを足がかりに、今後はイスラム法に準拠したファンドの設立等、  
**イスラム経済圏への進出を本格化**

### **3. 今後10年の飛躍に向けた 戦略的な方向性**

- (1) 金融生態系の海外移出**
- (2) 新興国の経済発展に応じた事業進出**
- (3) 脱工業化社会に向けた  
21世紀の成長産業への注力**

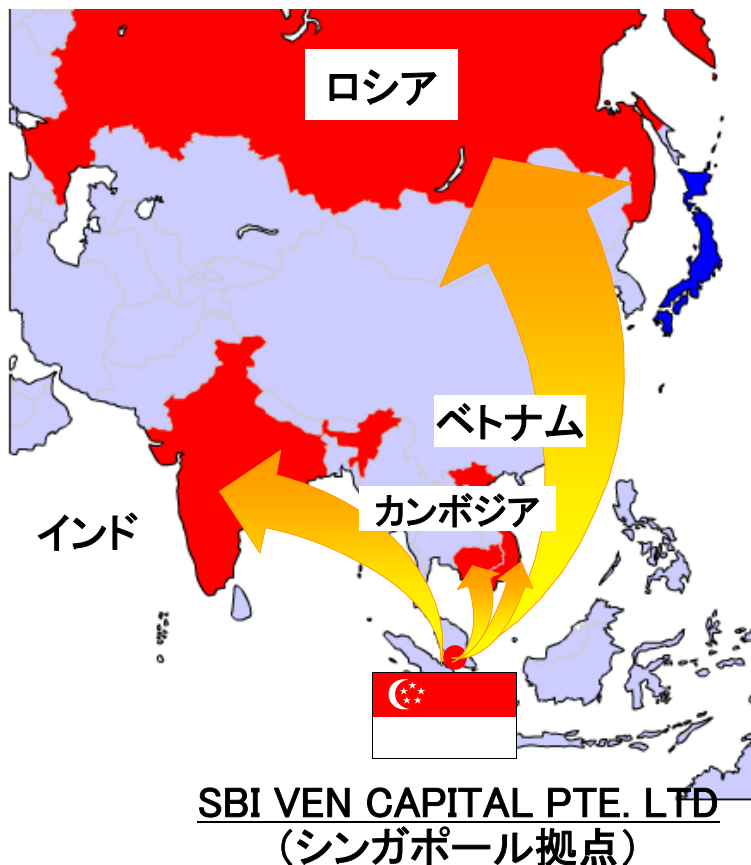
## (1) 金融生態系の海外移出

# アジアの成長力をSBIの成長力へつなげる

～ ファンド運営事業を軸に様々な金融事業へ拡大 ～

世界的にGDPのマイナス成長が見込まれる中、09年度以降も安定した経済成長の見込まれる中国やインドなどアジア新興国への進出・事業展開を更に加速

新興諸国の潜在成長力を取り込みアジアの企業生態系を構築、  
グループの継続成長を実現する



・カンボジア: 昨年9月に開業した**プノンペン商業銀行**は、09年4月に**今年度(2009年12月期)の累積損失を解消し、単年度黒字化の見通し**



・ベトナム: 09年7月中を目処に、**ベトナムの現地銀行への20%の出資**が完了する見込み



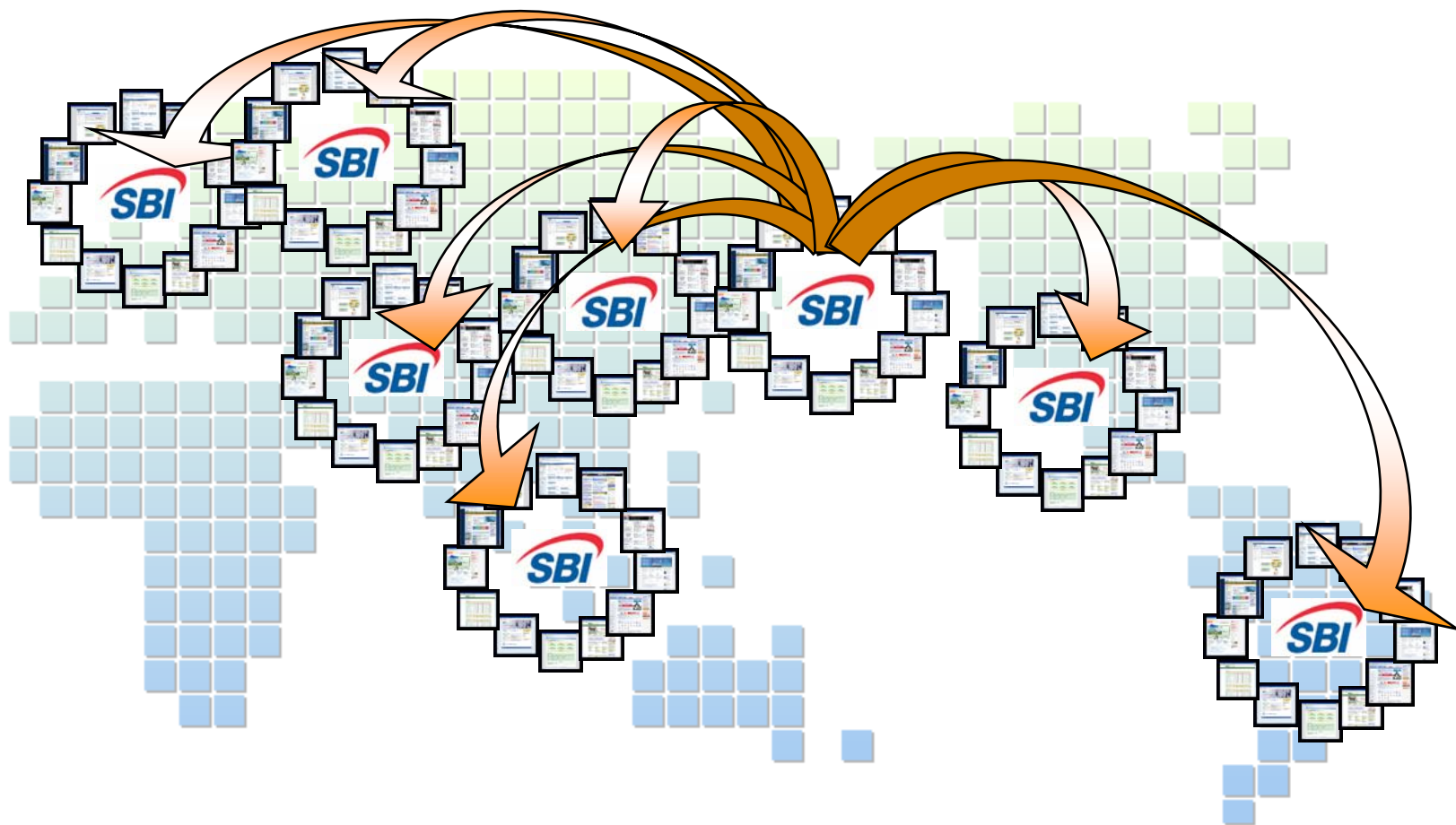
・インド: インドの金融機関と、**インドにおける証券会社**の今期中設立を目指して調整中



・ロシア: ファンド提携先のIFC METROPOL社傘下の**銀行への出資**を検討中



今後も海外におけるJVファンド設立を通して構築した  
パートナーシップ等を活用し、アジアをはじめとする新興国に  
向けてSBIグループのインターネット金融生態系を移出



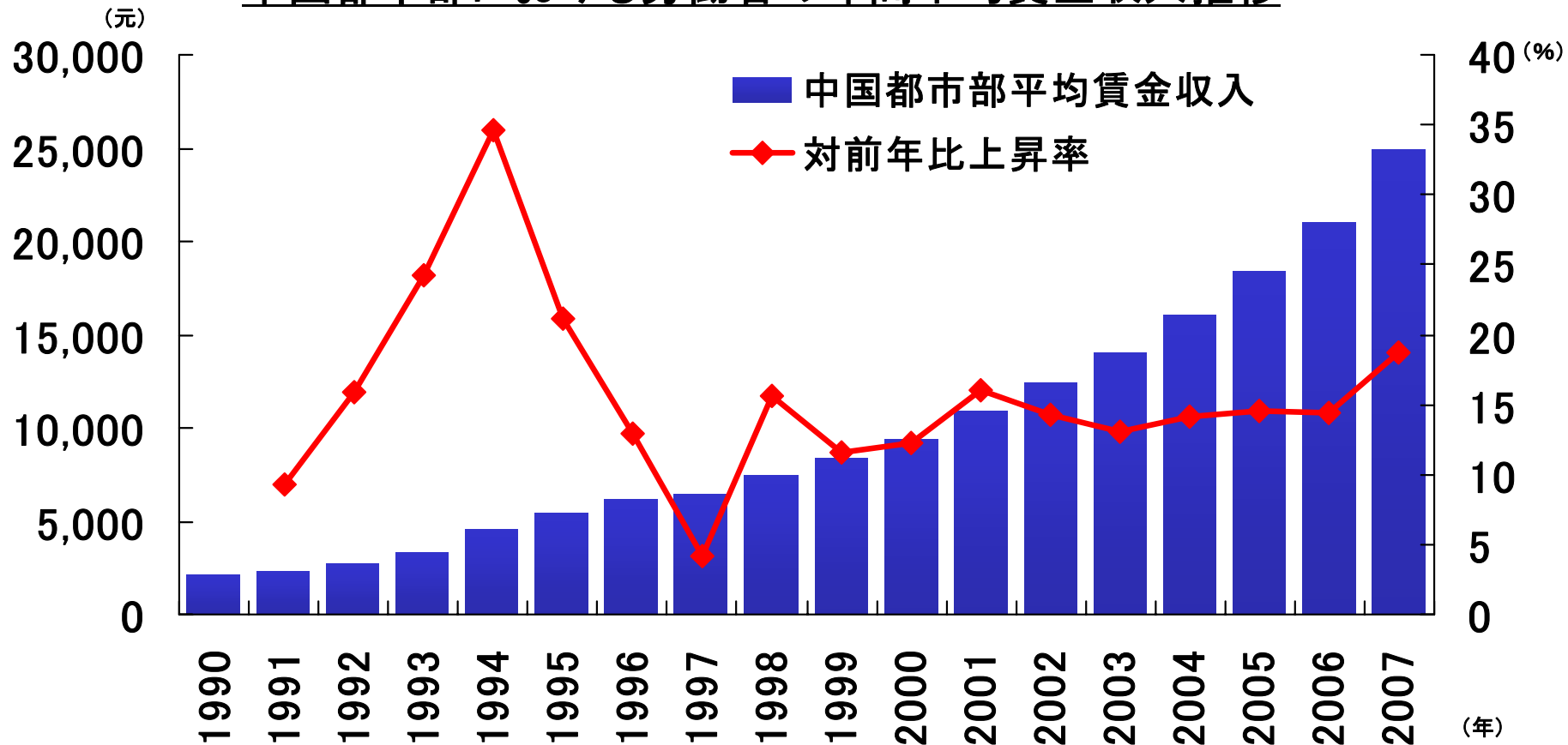


## **(2) 新興国の経済発展に応じた事業進出**

## 所得水準が継続的に上昇している中国

日本が人口減少・経済マイナス成長と市場が縮小する一方で、13億人の人口を有する中国では平均所得も順調に上昇しており、今後は日本企業にとっても無視することのできない大きな市場となる。

### 中国都市部における労働者の年間平均賃金収入推移



# SBIグループの中国関連事業展開

SBIベリトランスでは、中国向けネット通販での銀聯カード決済を開始

→「銀聯ネット決済」が可能なECモール「バイジェイドットコム」を通じて中国市場を開拓

ECモール「バイジェイドットコム」(佰宜杰.com)

**市場開拓!**

人口:約13億人

中国人消費者



国内商品

人口:約1億2千万人

“日本=高品質ブランド”と認知されている

決済サービスの提供

三井住友カード株式会社



SBI VeriTrans

当社グループ出資のナルミヤ・インターナショナルも中国市場開拓へ

記事

～日本の子供服市場は少子化で縮小傾向が続くなか、中国の沿岸部に出店し、富裕層の需要を取り込む～

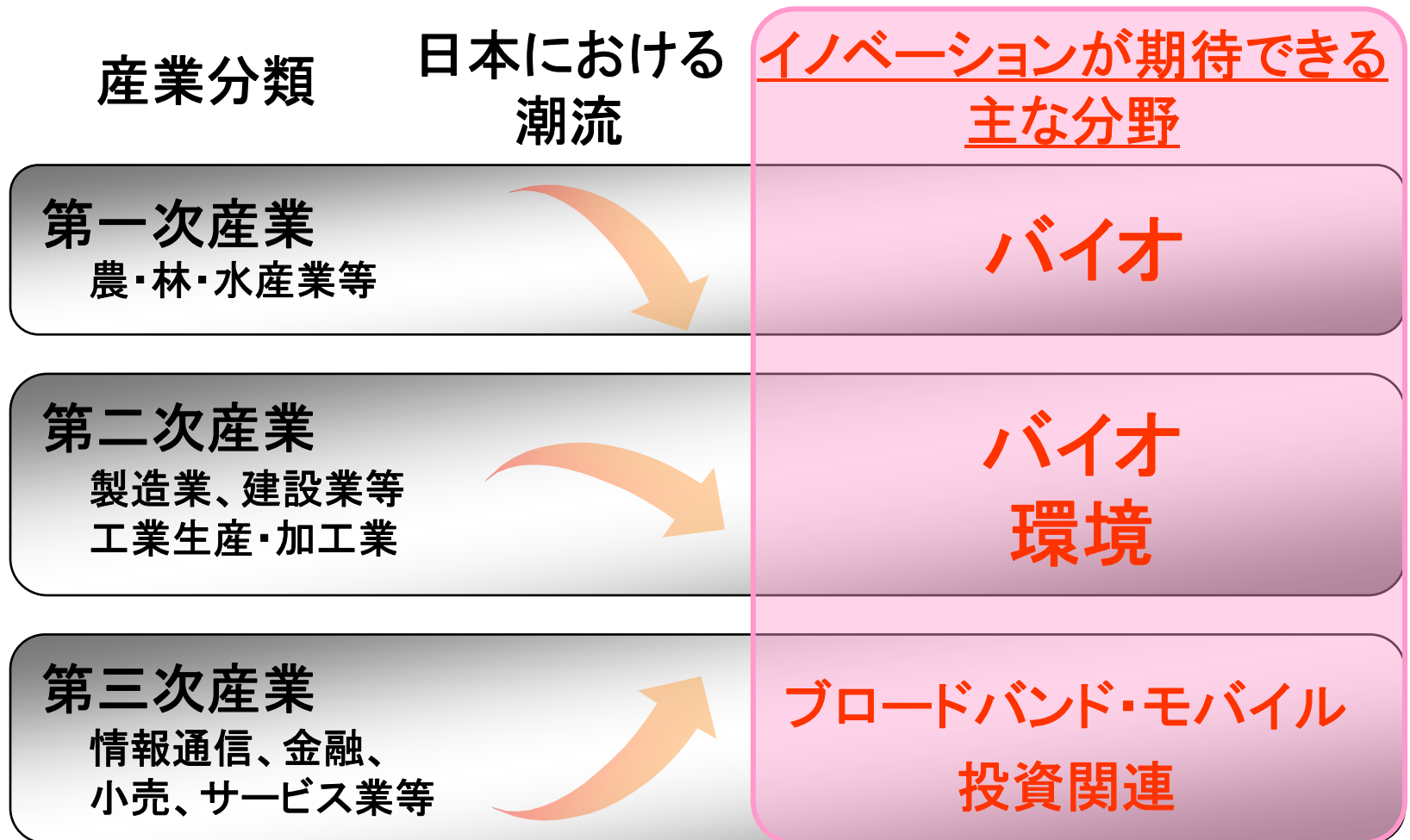
※ 2008年10月23日  
日本経済新聞朝刊より抜粋

日本の衰退産業を移出することで中国での成長産業へ

## **(3) 脱工業化社会に向けた 21世紀の成長産業への注力**

# 先進国日本では業種・企業間の成長性格差は大きい

～セレクトティブになる必要性～



日・米・中・韓の世界的研究拠点や研究者を有するSBIバイオテックは、「複数」の  
パイプラインと世界的なネットワークを強みにグローバルな事業展開へ

【創薬パイプライン】

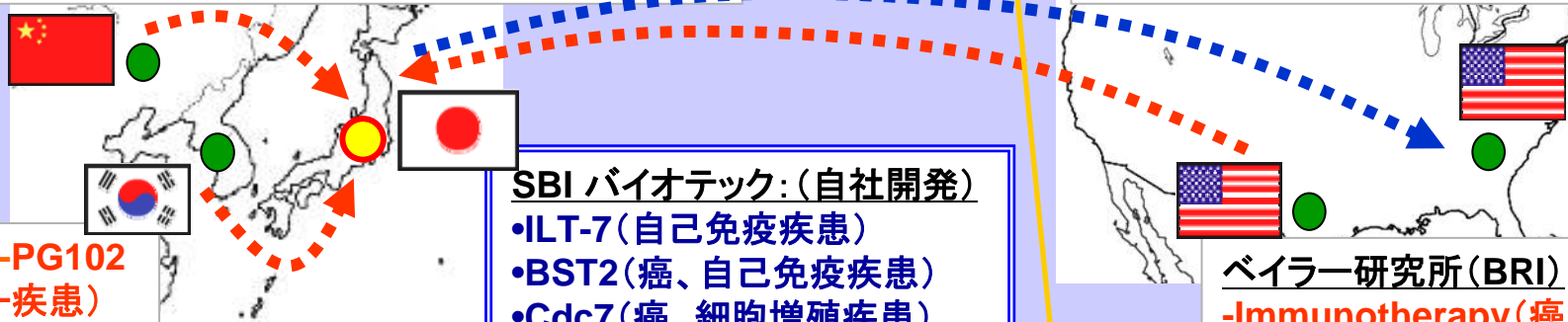
HUAPU社: -GNKG168 (B細胞性・慢性リンパ性白血病)  
-3パイプライン (CpG核酸医薬)

MedImmune社: -ILT-7  
(ライセンスコラボレーション)

Helixir社: -PG102  
(アレルギー疾患)

SBIバイオテック: (自社開発)  
•ILT-7 (自己免疫疾患)  
•BST2 (癌、自己免疫疾患)  
•Cdc7 (癌、細胞増殖疾患)

ベイラー研究所 (BRI)  
-Immunotherapy (癌)



【PG102 サルナシ抽出物】

・2009年2月、「ノースっとサルナシ」  
を健康補助食品として発売開始



【HUAPU (CpG核酸医薬)】

・GNKG168 (CpG核酸医薬) は、2009年5月に米国オハイオ大学 (臨床試験施設) のIRB (臨床試験審査委員会) 承認。

2009年6月中に、「SBIバイオテック初」の臨床試験 (フェーズ I) 開始予定。

・新たな”3パイプライン”の導入:

2009年6月4日、CpG核酸医薬 (3パイプライン) ライセンスイン成立。

【BRI (樹状細胞療法)】

・2009年6月4日、樹状細胞療法 (米国: フェーズ II) のライセンスイン成立。

7月1~3日、アジア最大のバイオイベント「国際バイオEXPO」に参加予定

# グローバルな連携で進捗している創薬・免疫細胞療法プロジェクト

## 【免疫細胞療法】 米国ベイラー研究所(BRI)と樹状細胞療法で提携

BRI免疫細胞療法によって完全寛解が認められたメラノーマ(皮膚がん)の例:



米国で臨床第Ⅱ相試験中(フェーズⅡ)

樹状細胞療法は、最先端の免疫細胞療法で、BRIが開発した特殊な癌細胞株死細胞を用いて治療を行う。

この細胞を冷凍保存しての流通・販売や、手術で自己の癌組織が得られない場合にも樹状細胞ワクチン作製が可能等の優位点がある。

## 【核酸医療プロジェクト】

中国の医薬開発ベンチャーHuapu社と提携

6月中に臨床第Ⅰ相試験(フェーズⅠ)開始予定

核酸医療は、遺伝子やその一部分をヒトの体内に投与し、遺伝子の働きを利用して病気を治す。

核酸医薬はその薬で、抗体医薬などと比較して製造コストが低く、副作用の少ない医薬品となる可能性等から、次世代のバイオ薬として注目されている。

既存のがん治療:

- ◆ 外科手術
- ◆ 化学療法
- ◆ 放射線療法



# 大手製薬会社の主力薬品の特許切れが相次ぐ「2010年問題」 を乗り切るためには、「創薬力」を高めることが成長戦略に

記事

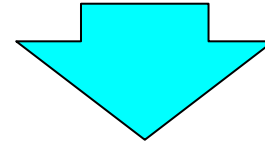
## 【製薬産業の現状】

・FDA(米国食品医薬品局)：

審査基準が厳格化し、新薬開発は格段に難しくなっている。

・国内大手製薬会社：

自らが手掛けてきた低分子医薬に比べ成功確率が高く、開発期間が短いバイオ創薬に注目。ポスト抗体医薬と呼ばれ遺伝子の構成成分を利用した「核酸医薬」等につながる技術を持つバイオベンチャーとの提携が加速。新薬候補の確保が急務となっている。



SBIバイオテックでは、日本・米国・中国・韓国のグローバルな連携と複数の有力なパイプラインを強みに、創薬・免疫細胞治療の事業を本格展開中



## クオーク・ファーマシューティカルズ社（SBIグループ出資比率：24.87%）

### RNA干渉（RNAi）をベースとした新薬の開発

#### 加齢黄斑変性症を対象疾患とする合成分子（PF-4523655）

- 2006年9月に米国ファイザー社とライセンス契約を締結した。ファイザーから支払われるライセンス料は600百万ドルを超える規模となる。
- 2008年7月に糖尿病性黄斑浮腫に対象拡大し、ライセンス料を受領した。開発ステージはフェーズⅡ試験へ前進。
- 2009年中に、フェーズⅡaの結果が判明する予定。成果が出ればM&AによるEXITの可能性が高まる。

#### RNA干渉を用いた医薬品候補「QPI-1002」

- 2009年1月、臨床試験において患者への投与を開始。適用は腎臓移植後の臓器拒絶予防。同分野では先行薬は存在せず、グローバル製薬会社が大きな関心を寄せる。

# 医薬品開発のための合併会社設立について

(2009年6月5日リリース)

記事



**SBIアラプロモ**  
(2008年4月設立)

化粧品分野で既に2008年12月、第一弾商品として「はたらくて」(ハンドクリーム)を、今年に入り、第二弾商品「花蜜」の実験販売を開始。



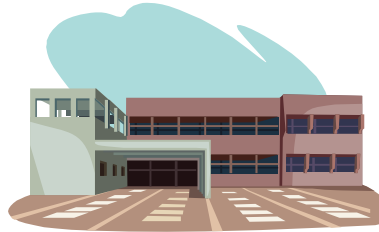
メダック  
**medac GmbH**

ドイツの製薬会社。5-ALAを利用した医薬品として、脳腫瘍の手術用診断薬を開発し、欧州医薬品審査庁より承認を受け販売中。

50%

50%

アラファーマ  
**ALApharna GmbH (所在地:ドイツ)**



欧州における5-ALAを利用した医薬品等の  
研究開発事業

(2009年6月5日(金)日経産業新聞より抜粋)

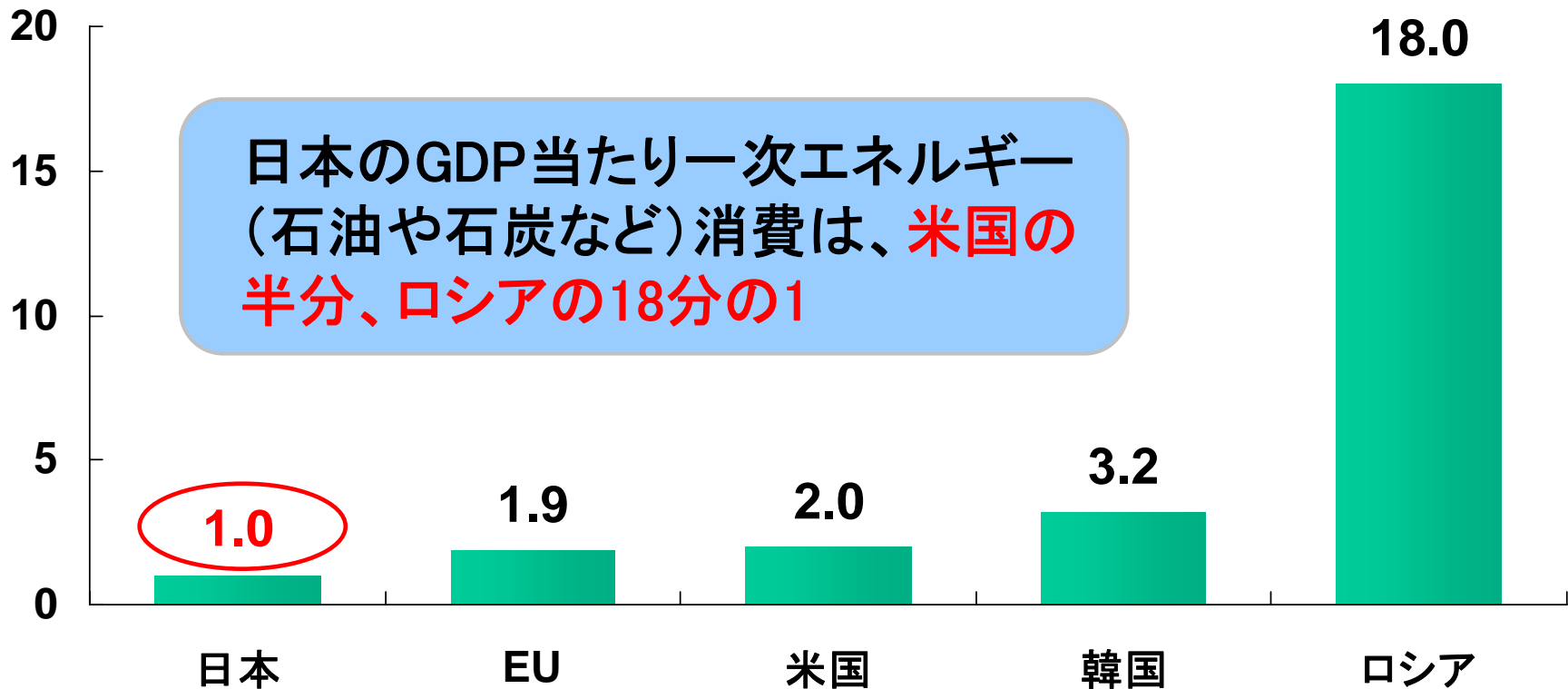
**年内の治験着手、早期の製品化を目指す**

# 環境・省エネ分野における日本の優位性

～環境分野で競争力を持つ日本企業には今後急速な成長が見込まれる～

## 国内総生産(GDP)当たりの一次エネルギー消費量の比較(06年)

(日本=1とした指数)



日本のGDP当たり一次エネルギー(石油や石炭など)消費は、**米国の半分、ロシアの18分の1**

(出所: 国際エネルギー機関)

- 廃棄資源を再利用したテレビなど電気製品
- 低コストの先進的太陽光発電
- 水素・酸素発電による燃料電池自動車 etc..

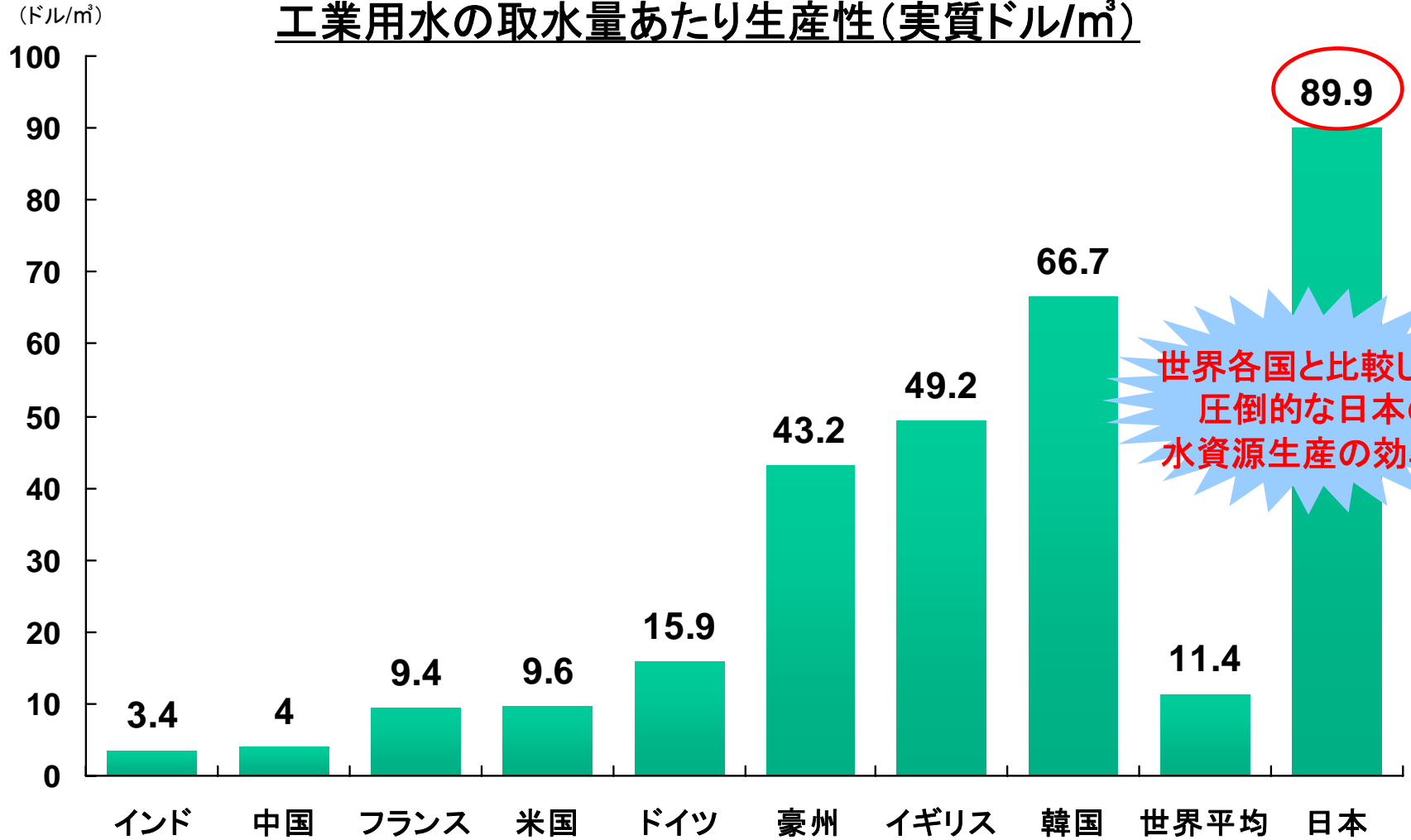
# 世界的に重要性を増す水資源生産の効率性

農業用水の需要量比率が大幅に減る一方、工業・都市の需要量比率は継続的に増加



経済発展とともに、工業用水の生産性がますます重要になる

### 工業用水の取水量あたり生産性(実質ドル/m<sup>3</sup>)



世界各国と比較しても圧倒的な日本の水資源生産の効率性

(出所) 経済産業省「平成20年通商白書」

# グループの運営するベンチャーファンドの現状

プライベート・エクイティ 2, 412億円

〔IT・バイオ等〕 合計 1, 205	
インターネット	67
ブロードバンド・メディア	573
モバイル	277
バイオ・その他	287

〔直接投資〕 251

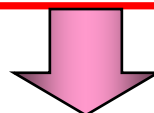
〔環境・エネルギー〕 68

〔バイアウト・メザニン〕 合計 352	
バリューアップ	192
メザニン※	160

〔海外〕	合計 536
中国・香港・その他※	359
ベトナム	82
インド	96

※2009年3月末現在

従来よりグループの運営するベンチャーファンドからの投資先は、今後の成長産業と見込まれる、IT(ブロードバンド、モバイル含む)、バイオ、環境・エネルギーに特化してきた



産業の成長力をファンドのリターンとして今後も享受

ファンドは2009年3月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

# UAE政府系の“Masdar Clean Tech Fund”と 代替エネルギー関連投資ファンドを共同設立



・「IT」「バイオ」に続く21世紀の次なる成長産業として「環境・エネルギー」を第三の重点分野と位置づけ



**MASDAR-SBI Fund**

出資約束金額: 2,000万米ドル

投資対象: 日本の有望な代替エネルギー関連企業

2009年1月 最終契約締結  
2009年6月 運用開始

**Masdar Clean  
Tech Fund**

- ・再生可能エネルギー技術関連の投資で主導的役割を果たす
- ・先進的エネルギー技術の発達を目指すUAEの国家プロジェクト、「マスタードール計画」を推進中

SBIグループの環境投資ネットワークとMasdarの豊富な財政資源を融合し、高成長が見込まれる代替エネルギー関連産業へ重点投資

*<http://www.sbigroup.co.jp>*